

YAESU

Radio for Professionals

C4FM/FM 144/430MHz
DUAL BAND DIGITAL TRANSCEIVER

FTM-510D

FTM-510DS

取扱説明書



製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります
この取扱説明書に記載の社名・商品名等は、各社の商標または登録商標です
この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません
この取扱説明書は、基本的な操作に関する説明が記載されています
詳細編、WIRES-X 編、GM 編、APRS 編の取扱説明書は、製品には同梱されていません
当社ウェブサイト (<https://connect.yaesu.com>) からダウンロードしてください

目次

本機の優れた機能や特長	1	オプションのスイングヘッドキット “	
クイックガイド	2	SJMK-500” を使用する	37
付属品/オプション	3	microSDメモ리카ード (市販品) を使う	38
基本操作	4	必要に応じておこなう操作	39
電源を入れる	4	通信モードを選択する	39
音量を調節する	5	通信モードを手動で設定する	40
スケルチ (SQL) を調節する	5	送信出力を変更する	40
周波数帯 (バンド) を選択する	5	選択できるバンド (周波数帯) を設定する	41
周波数をあわせる	6	周波数ステップを変更する	41
メインバンドとサブバンドを入れ替える	7	操作バンドの周波数表示色を変える	41
送信する	7	便利な C4FM デジタル機能を使う	42
キーや DIAL ツマミをロックする	7	DG-ID 機能を使って交信する	42
便利な機能	8	レピータ運用	44
① CFL: カスタマイズドファンクションリスト	8	メモリー機能	45
② PMG (プライマリーメモリーグループ) 機能	9	メモリーに書き込む	45
③ 同時受信とスコープ動作の切り替え	10	メモリーオートグループピング (MAG) 機能で	
④ MAG (メモリーオートグループピング) 機能	10	同じ周波数帯 (バンド) のメモリーだけを呼び出す ...	49
⑤ VFO バンドスキップ機能	10	M-GRP (メモリーグループ) によく使う	
⑥ メモリーチャンネル → VFO コピー	10	メモリーチャンネルを登録する	50
ワンタッチで同時受信とスコープ動作を		メモリーを編集する	51
切り替える	12	ホームチャンネルを呼び出す	53
同時受信時	12	ホームチャンネルの内容を変更する	53
スコープ動作時	12	スプリットメモリー	54
スコープ動作時の画面に表示する		スキャン機能	55
チャンネル数を変える	12	スキャン停止時の動作を設定する	55
サーチ&ゴー (短押し)	13	スキップメモリーを設定する	56
タッチ&ゴー (長押し)	13	プログラマブルメモリースキャン (PMS)	56
クイックバック機能	13	便利な機能	57
PMG (プライマリーメモリーグループ) 機能	14	Bluetooth 機能	57
PMG 画面の説明	14	Bluetooth ユニット “BU-5” を取り付ける	57
PMG に周波数を登録する	15	はじめてヘッドセットと接続する	58
PMG に登録した周波数を取消す	15	Bluetooth ヘッドセットのボタンを押して送信する	
CFL (カスタマイズドファンクションリスト)	18	(VOX 機能がオフの場合)	59
ファンクションリストを使う	18	Bluetooth ヘッドセットでハンズフリー運用をする	
ファンクションリストへ登録する	19	(VOX 機能)	59
ファンクションリストへの登録を取り消す	19	VOX (音声自動送信) 機能	60
受信感度をアップさせる/ノイズを除去して		VOX (音声自動送信) デレイ時間を設定する	61
クリアな音質にする	20	別の Bluetooth ヘッドセットと接続する	62
AESS (Acoustic Enhanced		Bluetooth 接続中に本機のスピーカーを	
Speaker System)	22	鳴らすかどうかを設定する	63
各部の名称と操作	23	デュアルレシーブ機能	64
コントロールヘッド (前面)	23	音声録音機能を使う	65
コントロールヘッド (上面)	25	録音の設定を変更する	66
コントロールヘッド (側面)	26	録音した音声を再生する	67
コントロールヘッド (後面)	26	GPS 機能	68
本体 (前面)	26	WIRES-X 機能	68
本体 (後面)	27	APRS 機能	68
マイクロホン (SSM-85D)	28	デジタルパーソナルID (DP-ID) 機能	69
ディスプレイ	30	トーンスケルチ機能	69
主な表示画面	32	デジタルコードスケルチ (DCS) 機能	69
電波を発射する前に	34	ページャー (EPCS) 機能	69
無線機の設置と接続方法	34	セットアップメニュー	70
モバイル運用についてのご注意	34	セットアップメニューの一覧表	71
設置上のご注意	35	設定を初期値に戻す (リセット)	80
アンテナと電源の設置	35	文字入力画面の操作	81
アンテナと電源の接続	35	定格	83
無線機/コントロールヘッド/マイクロホンの接続	36	バンド区分	84
無線機本体を設置する	36	免許申請書類の書きかた	84
		送信機系統図	87

このたびは、当社製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます

- ◎ フロントスピーカーを搭載し、本体スピーカーを併用する AESSデュアルスピーカーシステムによるクリアな音質と拡がりのある大音量
- ◎ 総合出力 9W(3W:本体、6W:コントロールヘッド)高音質・大音量スピーカー
- ◎ デュアルモービルの新しい操作感覚“タッチ&ゴー”と“サーチ&ゴー”の最新オペレーティングシステム E2O-IV (Easy to Operate-IV)
 - ・タッチ&ゴー機能: スコープ画面から移動したい周波数へ瞬時に移動
 - ・サーチ&ゴー機能: 運用中のままスコープ画面から聞きたい周波数を同時受信
- ◎ PMG(プライマリーメモリーグループ)は、現在の周波数を  キーを長押しするだけで登録(最大 5 チャンネル)できます。  キーを押すだけで登録した周波数をスキャンして受信状況(信号強度)をリアルタイムでバーグラフ表示します
- ◎ 相手の受信電波が弱い時に RFアンプの感度をアップさせるスーパー DX機能を搭載。通話範囲を拡げることができます
- ◎ Audio Digital Signal Processing Unit “SPU-1”装着時は、受信感度をアップさせると同時に受信信号を AF帯域でデジタル処理しノイズ部分を分離して除去、音声部分を浮き上がらせて、よりクリアに聞きやすい音質で再生することができます。従来聞き取れなかったノイズに埋もれた微弱信号でもクリアに受信することができます
- ◎ 通信品質に優れた C4FMデジタル、アナログFM通信、AM(エアバンド受信)に対応
- ◎ 異なる 2 バンド+同一バンド 2 波同時受信対応 (V+V/U+U/V+U/U+V)
- ◎ C4FM/C4FM同時待ち受け(デジタルD/D)対応
- ◎ AMS(Automatic Mode Select)機能を搭載
相手局の信号に合わせて、自局の通信モードを自動的に選択しますので、アナログFMとC4FMデジタルをシームレスに楽しむことができます
- ◎ デジタルグループID(DG-ID)を搭載
00 ~ 99 の DG-ID番号を合わせるだけで、仲間だけとの通信を楽しむことや、デジタルGM(グループモニター)機能を使って仲間が通信圏内かどうか、また距離や方位を自動で確認することができます
- ◎ 高輝度、広視野角の 2.4 インチタッチパネル QVGAフルカラー TFTディスプレイを採用
- ◎ コントロールヘッドのアンクルが約 20 度上向きに可変できるスイングヘッド機能
- ◎ 127 種類のセットアップメニューから、よく使う機能を登録(最大 8 個)して、FUNCツマミのワンタッチ操作で機能と設定値が一覧で表示され、FUNCツマミで簡単に選択して使う事ができる CFL(カスタマイズドファンクションリスト)画面
- ◎ メモリーオートグルーピング(MAG)機能により、同じ周波数帯のメモリーチャンネルだけを自動的にグルーピングして呼び出すことができます
- ◎ 最大 61 チャンネルの信号強度をバーグラフで高速に表示するバンドスコープ運用とデュアル受信運用を瞬時に切り替えるワンタッチスコープ機能
- ◎ 108MHz ~ 550MHz までの広帯域受信機能搭載
- ◎ 準天頂衛星システム「みちびき」に対応した高精度 GPSレシーバーを内蔵
- ◎ Bluetooth によるワイヤレス運用(オプションの BU-5 および SSM-BT20 が必要です)
- ◎ 16 文字(全角 8 文字)漢字対応メモリータグ付き大容量 1103 チャンネルメモリー
- ◎ 安定した送信出力を保証する“FACC(Funnel Air-Convection Conductor)”冷却システム
- ◎ WIRES-X のポータブルデジタルノード(PDN)機能に対応
- ◎ 市販の microSD カード(最大 32GB)に対応

製品の改良のため、取扱説明書のイラストなどの一部が実際の製品と異なる場合があります
あらかじめご了承ください

Bluetooth のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、
八重洲無線株式会社はライセンスに基づいて使用しています

クイックガイド

① 電源をオンにする

 キーを長押しします

② コールサインを入力する

C4FMデジタルの多彩な機能をお楽しみいただくために、最初にコールサインを入力してください

入力した内容は後から、セットアップメニューの“120 コールサイン”(79 ページ参照)で、変更することができます

- ご購入後に初めて電源をオンにすると入力画面が表示されます



2. FUNCツマミを押します



3. コールサインを入力します

タッチするか、FUNCツマミをまわして文字を選択して、FUNCツマミを押して文字を入力します

 : カーソルが左に移動

 : カーソルが右に移動

ABC : アルファベットの入力画面

123 : 数字と記号の入力画面

 : カーソル左側の文字を削除

4. 同様の操作を繰り返して、コールサインを入力します

5. FUNCツマミを長押しして入力を終了します

自動で電源オフ → 電源オンになり“初期画面”(VFOモード)が表示されます

③ 使用する周波数帯(バンド)を選択する

 キーを押します

④ 周波数をあわせる

DIALツマミをまわします

⑤ 音量を調節する

VOL/SQLツマミをまわします

⑥ スケルチを調整する

アナログFM特有の“ザー”という連続したノイズが聞こえる場合は、スケルチを調節します

- VOL/SQLツマミを押します(画面のVOLバーが黄色のSQLバーに変わります)

- VOL/SQLツマミをまわしてノイズが消える位置にあわせます

※スケルチレベルを上げるとノイズは消えやすくなりますが、弱い電波を受信しにくくなります

- もう一度VOL/SQLツマミを押すか、約3秒間経過すると調整は終了します

⑦ 通信モードを切り替える

初期設定状態では相手局の信号にあわせて通信モードが自動的に選択されます

※ キーを押すかディスプレイのモード表示部分にタッチして手動で通信モードを切り替えることもできます(“通信モードを手動で設定する”(40 ページ)を参照してください)

⑧ 送信する

マイクのPTTスイッチを押しながら話します。PTTスイッチを放すと受信します

Bluetooth機能を設定する

本機はBluetooth機能に対応しています
Bluetoothヘッドセットを使用するには、“Bluetooth機能”(57 ページ)を参照して設定します

付属品

- DTMF付きマイクロホン (SSM-85D)
- DC電源ケーブル
- 本体用ブラケット (取付ネジ一式を含む)
- 予備ヒューズ (FTM-510D : 15A、FTM-510DS : 10A) 2本
- 取扱説明書 (本書)
- 保証書



- 保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることを確認してください
- 万一、不足品がある場合は、お買い上げの販売店へご連絡ください

オプション

- | | |
|-------------------------|----------|
| • スイングヘッドキット | SJMK-500 |
| • ダッシュマウントブラケット | MMB-103 |
| • コントロールヘッド延長ケーブル (6m) | CT-132 |
| • コントロールヘッド延長ケーブル (3m) | SCU-62 |
| • マイクエクステンションキット (3m) | MEK-5 |
| • WIRES-Xコネクションケーブルキット | SCU-58 |
| • ボイスガイドユニット | FVS-2 |
| • DTMF付きマイクロホン (付属品と同等) | SSM-85D |
| • マイクロホン | MH-42C6J |
| • Bluetoothユニット | BU-5 |
| • Bluetoothヘッドセット | SSM-BT20 |
| • 大音量外部スピーカー | MLS-100 |
| • 液晶保護シート | SPS-500D |

本書では次のような表記を使用しています



注意していただきたい内容を説明します

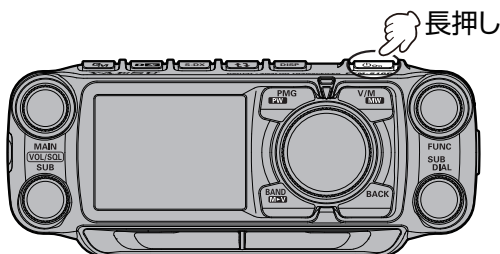


操作上のアドバイスや知っておくと便利なことを説明します

基本操作

電源を入れる

1.  キーを長押しすると、電源がオン/オフします



● コールサインを入力する

1. 購入後、初めて電源をオンにしたときやオールリセットをした後は、C4FMデジタルの多彩な機能をお楽しみいただくために、コールサインを入力してください
2. **FUNC**ツマミを押して、入力画面に進みます
 - 2回目からは電源をオンにすると、オープニング画面が表示されたあと、周波数画面が表示されます
 - 入力したコールサインは、後からセットアップメニューの“コールサイン”(79ページ)でいつでも変更できます
3. 文字にタッチするか**FUNC**ツマミをまわして文字を選択して**FUNC**ツマミを押すと、文字が入力されカーソルが右に移動します



- 数字/記号入力画面に切り換え
【123】をタッチするか、**FUNC**ツマミをまわして【123】を選択、**FUNC**ツマミを押します
 - アルファベット入力画面に切り換え
【ABC】をタッチするか、**FUNC**ツマミをまわして【ABC】を選択、**FUNC**ツマミを押します
 - 点滅カーソルの移動
【←】または【→】をタッチするか、**FUNC**ツマミをまわして【←】または【→】を選択、**FUNC**ツマミを押します
 - 入力した文字の削除 (バックスペース)
【X】をタッチするか、**FUNC**ツマミをまわして【X】を選択、**FUNC**ツマミを押します。カーソルの左側の文字を削除してカーソルが左に移動します
4. 手順3を繰り返してコールサインの入力が終わったら、**FUNC**ツマミを長押しします



- コールサインは最大10文字まで入力できます
- コールサインに入力できる文字は“0～9”と大文字アルファベット“A～Z”、記号“-”、“/”です

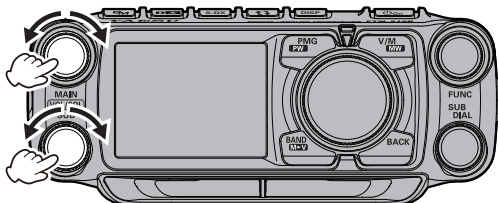
音量を調節する



上側に表示されているバンドを“メインバンド”、下側に表示されているバンドを“サブバンド”と呼びます

メインバンド(画面上側)の
音量調節

サブバンド(画面下側)の
音量調節



スケルチ (SQL) を調節する

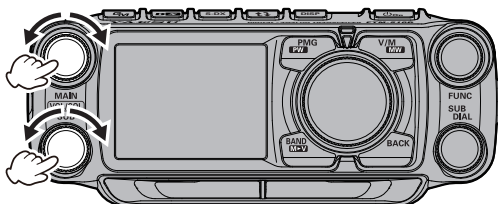
アナログFM特有の、信号を受信していないときの「ザー」というノイズを消すことができます。通常は出荷時の設定で使用しますが、ノイズが入る場合は調節します。

1. VOL/SQLツマミを押してからまわして、ノイズが消える位置に調節します

押してからまわす

メインバンド(画面上側)の
スケルチ調節

サブバンド(画面下側)の
スケルチ調節



押してからまわす

- 調節中はVOLメーターがSQLメーター(**SQL**)に切り替わります
 - メインバンドとサブバンドで、個別に調節できます
2. 調節が終わったら、もう一度VOL/SQLツマミを押すか約3秒間何も操作しないと調節が終わりSQLメーターがVOLメーターに戻ります



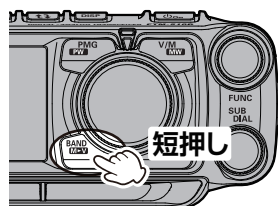
スケルチのレベルを上げるとノイズは消えやすくなりますが、弱い信号を受信しにくくなりますのでご注意ください

周波数帯 (バンド) を選択する

 キーを押して周波数帯を選択します

選択できる周波数帯は以下のとおりです

航空無線帯 : 108MHz ~ 137MHz
144MHz/VHF帯 : 137MHz ~ 174MHz
VHF帯/UHF帯 : 174MHz ~ 400MHz
430MHz/UHF帯 : 400MHz ~ 550MHz



“バンドスキップ機能”で、使用したいバンドだけを選択できるようにできます。よく使う周波数は、バンドスキップの設定をする前にメモリーチャンネルに保存しておけば、選択できないように設定したバンドの周波数でも呼び出すことができます

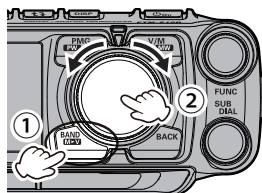


VFOモードで  キー長押し → FUNCツマミをまわして設定したいバンドを選択 → FUNCツマミ短押し → FUNCツマミをまわして“ON”(選択可能)または“OFF”(選択不可能)を設定します。  キーを押すと設定を終了します

周波数をあわせる

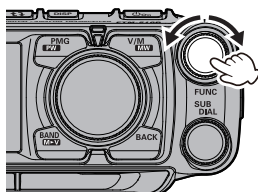
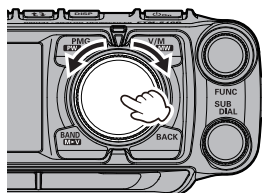
- ①  キーを押して運用したいバンドを選びます
- ② DIALツマミをまわして聞きたい周波数にあわせます

航空無線帯 : 108MHz ~ 137MHz
 144MHz/VHF帯 : 137MHz ~ 174MHz
 VHF帯/UHF帯 : 174MHz ~ 400MHz
 430MHz/UHF帯 : 400MHz ~ 550MHz

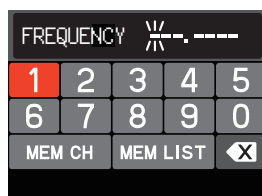


● 数字入力で周波数を直接入力する(ダイレクト入力)

1. DIALツマミを **長押し** すると、周波数入力画面が表示されます
 またはFUNCツマミを短押ししてファンクションリスト画面を出し、左上の“キーパッド”を選び、もう一度FUNCツマミを押すと、周波数入力画面が表示されます
2. 一番左の桁が点滅していますので、DIALツマミをまわして1桁目の数字を選びます
3. DIALツマミを短押しすると、2行目の桁が点滅します
4. DIALツマミをまわして2桁目の数字を選びます
5. 繰り返し同じ操作で数字を選ぶが、途中でDIALツマミを長押しすると、以下の桁が自動で0になり周波数が確定します



キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スルチ OFF	ARS AUTO
RPT-R	TOPE 88.5
DTMF	APRS OFF
>	



入力をキャンセルしたい時は途中で  キーを押します

● 大きく周波数を変えたいとき (MHzアップダウン機能)

DIALツマミを **短押し** すると、MHzの桁が点滅します

点滅している時にDIALツマミをまわして1MHzステップで周波数を変えることができます



この場合はバンドに関係なく108MHz ~ 550MHzの範囲で周波数を変え、入力した周波数が含まれるバンド内で運用ができます

運用バンドの詳細は下記を参照してください

108MHz ~ 137MHz	→ AMモード※
137MHz ~ 174MHz	→ デジタルまたはFMモード
174MHz ~ 222MHz	→ FMモード※
222MHz ~ 250.4MHz	→ AMモード※
250.4MHz ~ 300MHz	→ FMモード※
300MHz ~ 336MHz	→ AMモード※
336MHz ~ 400MHz	→ FMモード※
400MHz ~ 480MHz	→ デジタルまたはFMモード
480MHz ~ 550MHz	→ FMモード※

※セットメニュー [16 受信モード設定] でAM またはFMモードに変えることができます

● マイクロホンの数字キーで周波数を直接入力する

“0”～“9”の数字キーを押して、周波数を入力します

(例) 145.520MHz を入力する場合

[1]→[4]→[5]→[5]→[2]

(例) 433.000MHz を入力する場合

[4]→[3]→[3]→[いずれかの数字キーを長押し]



周波数を入力中にPTTを押すと入力をキャンセルできます



メインバンドとサブバンドを入れ替える

本機は、運用バンドが上下2段で表示されています。上側に表示されているメインバンドで送信することができます

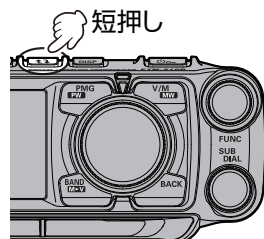


マイクロホンの[P1]キー(工場出荷時の設定)を押すと、サブバンド(画面下側)の周波数で送信できます



キーを押すたびに、上側のバンドと下側のバンドが入れ替わります

上側に表示されているバンドを“メインバンド”、下側に表示されているバンドを“サブバンド”と呼びます

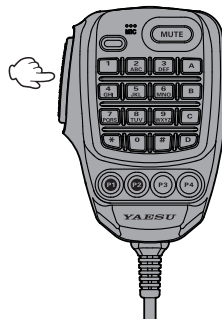


送信する

1. マイクのPTTを押しながら、マイクに向かって話します
2. PTTを放すと受信に戻ります



- アマチュア無線周波数帯の144MHz帯または430MHz帯以外の周波数で、PTTを押すと警告音が鳴り、ディスプレイに“TX PROHIBIT”が表示され送信できません
- 長時間送信し続けると本機が高温になります。その場合、過熱防止保護機能が働き、ピープ音が鳴り送信出力が自動的に下がります。なお、過熱防止保護機能が働いている状態でさらに送信を続けると、強制的に受信状態になります
- 呼出周波数(145.000MHzおよび433.000MHz)では、平成21年総務省告示第179号の注22により、デジタルモードでの送信は禁止されています。デジタルモードの呼出周波数は145.300MHzと433.300MHzです



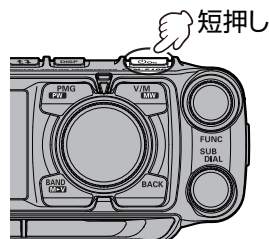
キーやDIALツマミをロックする

1. キーを押すと、約1秒間“LOCK”と表示され“”アイコンが点灯して本体とマイクロホンのキーやDIALツマミがロックします



PTT、VOL/SQ/Lツマミをロックすることはできません

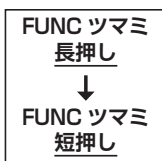
2. もう一度 キーを押すと、“UN LOCK”と表示され、ロックが解除されます
“”アイコンが消えます



① CFL: カスタマイズドファンクションリスト 18 ページ参照

使用頻度の高い機能は **FUNC** ツマミを押すだけのワンタッチ操作で呼び出すことができるファンクションリストで簡単に操作することができます。ファンクションリスト画面では優先機能の一覧と設定状態がひと目で把握でき、機能の実行や設定変更を行うことができます。ファンクションリストには初めから機能が登録されていますが、127 種類のセットアップメニューからよく使う機能を、ファンクションリストに登録（最大 8 個）して使いやすくカスタマイズすることができます

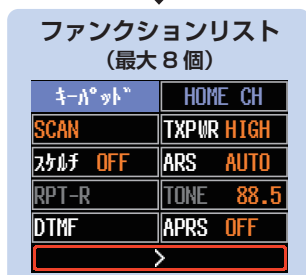
FUNC ツマミ長押しで呼び出し



項目を登録



FUNC ツマミ短押しで呼び出し



一番上に表示される“キーボード”と“HOME CH”は変更できません。

● ファンクションリストへ登録する

FUNC ツマミを長押ししてセットアップメニューを表示して、**FUNC** ツマミで登録したい項目を選択、**FUNC** ツマミを長押しします

FUNC ツマミで登録する位置を選択して **FUNC** ツマミを押すと、ファンクションリストに登録されます

● ファンクションリストを使う

FUNC ツマミを押してファンクションリスト画面を表示して、使いたい機能にタッチするか **FUNC** ツマミで選択します

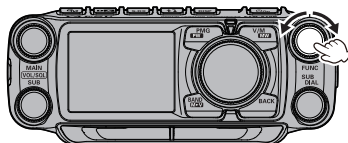
FUNC ツマミを押すと、機能の実行や設定変更を行うことができます

● 登録を取り消す

ファンクションリスト画面で、取り消したい機能にタッチするか **FUNC** ツマミで選択します

キーを長押しすると確認画面が表示されますので、**FUNC** ツマミで“OK”を選んで **FUNC** ツマミを押すと登録が取り消されます

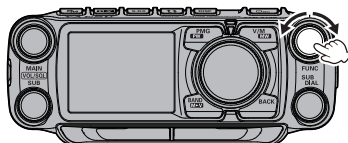
① **FUNC** ツマミ長押しで セットアップメニューから選択



② **FUNC** ツマミ長押し

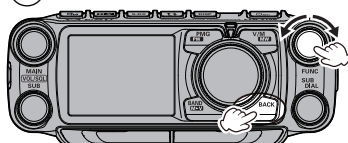
③ **FUNC** ツマミで登録する位置を選択して **FUNC** ツマミを押して登録

① **FUNC** ツマミ短押しで ファンクションリスト呼び出し



② **FUNC** ツマミをまわって選択して **FUNC** ツマミを押す

① **FUNC** ツマミをまわって選択

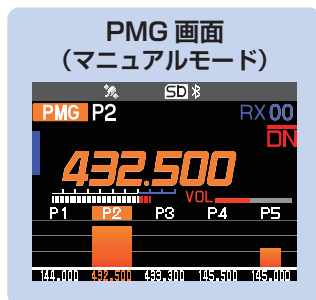


② キーを長押しして登録の取り消し

② PMG(プライマリーメモリーグループ)機能 14 ページ参照

登録チャンネルの受信状態をバーグラフで表示するPMG機能は、VFO、メモリーチャンネルに関係なく現在の表示周波数を  キーを長押しするだけで、最大 5 チャンネルまで登録できます。PMG画面にはマニュアルモードとオートモードがあり、**DIAL**ツマミを長押しして切り替えることができます

マニュアルモードでは、送受信は選んだチャンネルに固定され、他のチャンネルに信号が入ると同時受信します
バーグラフ部分にタッチするかDIALツマミをまわすと、運用チャンネルが切り替わります



P2 を受信中でも他のチャンネルに信号が入ると同時受信します

● PMG に周波数を登録する

VFO またはメモリーチャンネルの周波数を表示させて  キーを長押しします
周波数がPMGに登録されます

● PMG画面を表示する

 キーを押すとPMG画面が表示されます

マニュアルモードとオートモードは**DIAL**ツマミを長押しして切り替えます

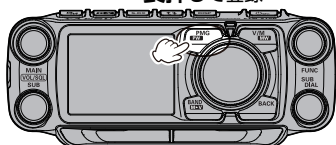
マニュアルモード：

DIALツマミで選択またはバーグラフを短押しして選んだチャンネルの信号を受信しながら他のチャンネルもスキャンし、信号が入ったチャンネルを同時受信します
送信は選択したチャンネルに固定されます

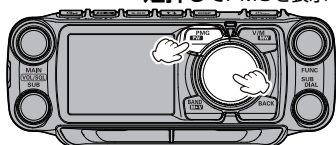
オートモード：

PMGチャンネルをスキャンして、信号が入ったチャンネルを2チャンネルまで同時受信します。信号がなくなるとスキャンを再開して、常に2チャンネルまで同時受信します
送信は自動的に、受信したチャンネルに移動して行きます

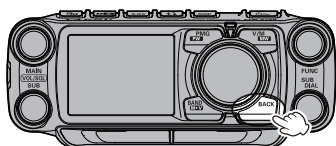
長押しで登録



短押しでPMGを表示



DIALをまわしてチャンネルを選択
DIAL長押しでオート/マニュアル切替



長押しで登録解除

● 登録されている周波数を取り消す

PMG画面でチャンネルを選択して  キーを長押しします

③ 同時受信とスコープ動作の切り替え..... 12 ページ参照

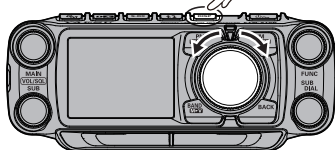
[DISP] キーを押すたびに、メインとサブの両方の周波数を同時に受信できる“同時受信”とメイン周波数を受信しながらサブ表示部で他の周波数をモニターする“スコープ動作”が切り替わります

スコープ表示中にDIALツマミをまわすと、スコープの中心周波数またはメモリーチャンネルを変えることができます

バーグラフを短押しすると、その周波数と現在の周波数で同時受信になります（サーチ&ゴー）

バーグラフを長押しすると、その周波数を中心としたスコープ動作になります（タッチ&ゴー）

短押しでスコープ画面を表示



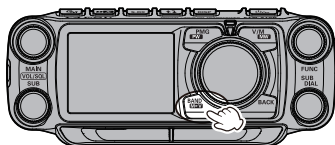
DIALをまわしてチャンネルを変更

④ MAG(メモリーオートグルーピング)機能..... 49 ページ参照

メモリーチャンネルをバンドごとに自動でグルーピングして呼び出すことができます

メモリーモードで **[BAND/GRV]** キーを押します

[BAND/GRV] キーを押す度に、下記の様にバンドが切り換わり、バンドごとに自動でメモリーチャンネルをグルーピングして呼び出すことができます



メモリーモードで
短押しでバンドを切り替え



⑤ VFOバンドスキップ機能 41 ページ参照

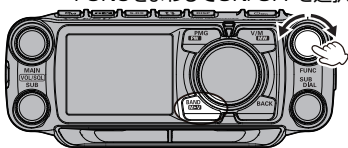
[BAND/GRV] キーを押した時に、使用しないバンドをスキップするように設定できます

VFOモードで **[BAND/GRV]** キーを長押しして、**FUNC**ツマミで設定したいバンドを選択して**FUNC**ツマミを押します

FUNCツマミをまわして“ON”（選択可）/“OFF”（選択不可）を選択します

スキップするように設定したバンドの周波数が保存されたメモリーチャンネルは呼び出すことができます

FUNCでバンドを選び
FUNCをまわしてON/OFFを選択

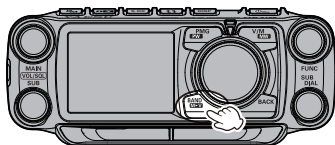


長押しで設定画面を呼び出す

⑥ メモリーチャンネル → VFOコピー 47 ページ参照

ワンタッチで呼び出し中のメモリーチャンネルをVFOに転送できます

メモリーモードで **[BAND/GRV]** キーを長押しすると、メモリーチャンネルの内容をVFOに転送してVFOモードに切り替わります



長押しでVFOにコピー

セットアップメニュー項目一覧

下記の 127 種類のセットアップメニューの中から、よく使う項目を最大 8 個までファンクションリストに登録することができます。(18 ページ参照) ■■■■■ の項目は工場出荷時設定でファンクションリストに登録されています

セットアップメニューについて詳しくは 70 ページを参照してください

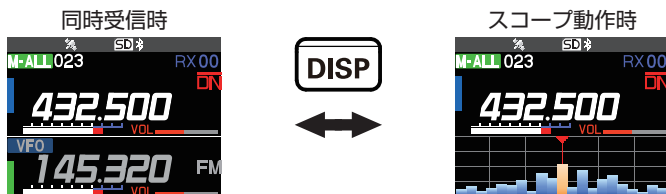
DISPLAY	SIGNALING			
1 キーパッド (変更できません)	43 DTMF	84 BEACON送信設定		
2 LCD画面輝度	44 DTMFメモリー設定	85 DIGIパス設定		
3 周波数表示色	45 スケルチタイプ	86 DIGI PATH 1		
4 バンドスコープ	46 トーン周波数/DCSコード	87 DIGI PATH 2		
5 位置情報表示	47 スケルチ拡張機能	88 DIGI PATH 3		
6 コンパス	48 ページャーコード	89 DIGI PATH 4		
7 ディスプレイモード	49 私鉄空線周波数	90 DIGI PATH FULL 1		
	50 ベル設定	91 DIGI PATH FULL 2		
TX	SCAN	92 コールサインAPRS		
8 送信出力	51 SCAN	93 メッセージグループ		
9 AMS送信モード	52 デュアルレシーブモード	94 メッセージ応答		
10 マイクゲイン	53 デュアルレシーブ間隔	95 MYポジション選択		
11 VOX設定	54 プライオリティリパート	96 MYポジション		
12 オートダイヤラ	55 SCAN RESUME	97 MYシンボル		
13 TOT		98 ポジションコメント		
14 DIGITAL VW設定		99 スマートビーコニング設定		
RX	DIGITAL	100 ソートフィルター		
15 FM帯域幅	56 ポップアップ設定	101 ボイスアラート		
16 受信モード設定	57 位置情報ON/OFF	102 ステーションリスト		
17 サブバンド	58 スタンバイビーブ	103 メッセージリスト		
18 オーディオコライザー		104 ビーコン送信選択		
MEMORY	GM	105 ビーコン手動送信		
19 HOME CH (変更できません)	59 DP-ID LIST			
20 メモリーリスト	60 レンジリンガー	<th>SD CARD</th>	SD CARD	
21 メモリーリストモード	61 RADIO ID	106 バックアップ		
22 PMG	62 LOG LIST	107 メモリー情報		
CONFIG	WIRES-X	108 フォーマット		
23 BEEP	63 WIRES周波数	109 画像取り込み		
24 BANDスキップ	64 サーチ条件			
25 RPT ARS	65 カテゴリ タグ編集	<th>OPTION</th>	OPTION	
26 RPTシフト	66 ROOM/NODE削除	110 Bluetooth		
27 RPTシフト周波数	67 WIRES DG-ID	111 ボイスメモリー (オプションのFVS-2 設定)		
28 RPTリバース		112 FVS録音開始		
29 マイクプログラムキー	<th>DATA</th>	DATA	113 FVSTラック選択	
30 日付時刻設定	68 COMポート設定	114 FVS再生開始		
31 日付時刻形式	69 データバンド選択	115 FVS停止		
32 タイムゾーン	70 データスピード	116 FVS消去		
33 周波数ステップ	71 データスケルチ	117 FVSボイスガイダンス		
34 クロックタイプ				
35 表示単位	<th>APRS</th>	APRS	<th>CLONE</th>	CLONE
36 オートパワーオフ設定	72 APRS DESTINATION	118 クローン送信		
37 GPS測位設定	73 APRSフィルター	119 クローン受信		
38 GPSデバイス	74 APRSメッセージテキスト			
39 GPSログインターバル	75 APRS MODEM	<th>RESET</th>	RESET	
AUDIO	76 APRSミュート	120 コールサイン		
40 録音設定	77 APRSポップアップ	121 メモリーチャンネル消去		
41 録音開始/停止	78 APRSリンガー	122 APRS設定初期化		
42 フロントスピーカミュート	79 APRSリンガー (CS)	123 CONFIG登録		
	80 APRS送信ディレイ	124 CONFIG呼び出し		
	81 APRS単位系	125 ソフトウェアバージョン		
	82 BEACONインフォメーション	126 言語設定		
	83 BEACONステータステキスト	127 工場出荷初期化		

ワンタッチで同時受信とスコープ動作を切り替える

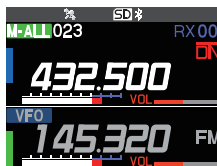
DISP キーを押すたびに同時受信とスコープ動作が切り替わります

スコープを表示中に**DIAL**ツマミをまわすと、スコープの中心周波数またはメモリーチャンネルを変えることができます

DIALツマミを押してからまわすと、1MHz単位（VFOモード時）10チャンネル単位（メモリーモード時）で変えることができます



同時受信時

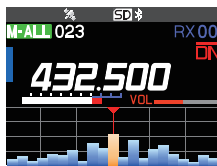


- 同時受信では、メインとサブの両方の周波数を同時に受信できます、音量はそれぞれのVOL/SQZツマミで調整します



キーでメインとサブの周波数を入れ替えることができます

スコープ動作時



- スコープ動作では、メイン周波数を受信しながらサブ表示部で他の周波数をモニターすることができます

- VFOモード時は現在の周波数を中心として上下のチャンネル（61CHまたは31CH）の使用状況（信号強度）を表示します
- メモリーモード時は呼び出し中のメモリーチャンネルを中心として上下のメモリーチャンネル（21CHまたは11CH）の使用状況（信号強度）を表示します

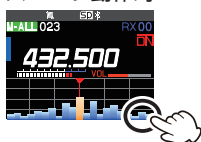
スコープ動作時の画面に表示するチャンネル数を変える

- FUNCツマミ長押し → [4 バンドスコープ] を選択 → FUNCツマミ短押し → FUNCツマミをまわして変更します

サーチ&ゴー(短押し)

- スコープ画面で、聞きたい信号のバーを **短押し** すると同時受信に切り替わります

スコープ動作時



聞きたいバーを短押します



短押ししたバーの
周波数で同時受信

スコープ画面での同時受信時



短押しすると
もとの画面に戻る

スコープ動作時



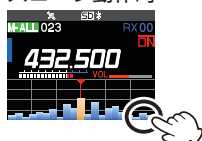
画面を短押します

運用モード、VFO、メモリーを
切り替えることができます

タッチ&ゴー(長押し)

- スコープ画面で、聞きたい信号のバーを **長押し** するとメインVFO の周波数が入れ替わります
- 同時受信中に、点滅している周波数を **長押し** するとメインVFO の周波数が入れ替わります
- メインVFO の周波数部分を **長押し** すると周波数入力画面になります

スコープ動作時



聞きたいバーを長押しする



長押しした周波数に
入れ替わる

スコープ動作時



スコープ画面での同時受信時



点滅部分を長押しする



長押しした周波数に
入れ替わる

スコープ動作時



スコープ動作時



周波数を長押しする



周波数入力画面が
表示される

周波数入力画面



クイックバック機能

現在運用中の周波数から他の周波数へ移動したときに、移動してから5秒以内であれば、**BACK** キーを押すことで前の周波数に自動で戻ることができます (PMG では動作しません)

PMG (プライマリー メモリーグループ)機能

PMG機能は、登録したPMGチャンネル (最大5チャンネル) をスキャンして、チャンネルの受信状態をバーグラフでリアルタイムに表示します。また、信号のある2つのチャンネルを自動で同時受信しますので、効率よく待ち受けをすることができます

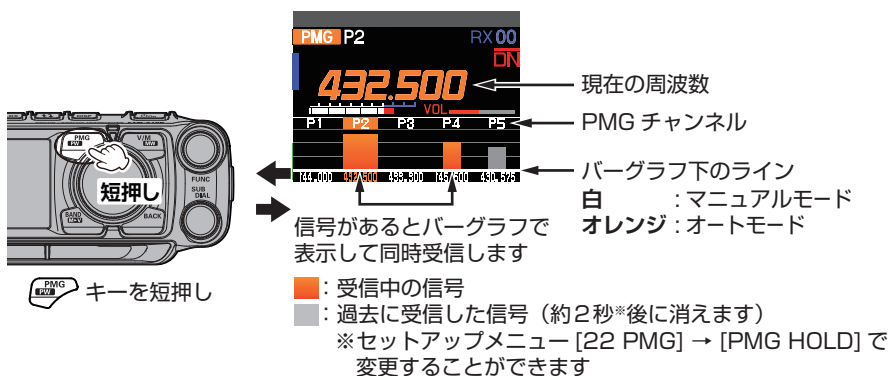
動作は“マニュアルモード”と“オートモード”で異なります

マニュアルモードでは選んだチャンネルで送受信を行います。その他のチャンネルに信号が入っても同時に受信することができます

オートモードでは、スキャンしているチャンネルに信号が入ると、自動的に信号が入ったチャンネルに移動して送受信を行います。その他のチャンネルに信号が入っても同時に受信することができます

PMG への登録は、現在の使用チャンネルで  キーを長押しするだけで登録できます

PMG画面の説明



- PMG に登録チャンネルがないと  キーを押してもPMG画面になりません

- PMG動作中のスケルチ調節は、上側のVOL/SQLツマミを押してからまわすとPMG に登録されている全てのチャンネルに反映されます

- PMG画面での同時受信時の音量調節は、DIALツマミで選んだチャンネルの音量は上側のVOL/SQLツマミで、他のチャンネルの音量は下側のVOL/SQLツマミで個別に調節できます

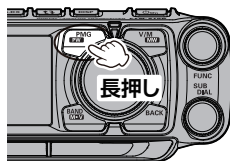
- PMG画面で  キーを長押し
→ 現在選択されているPMGチャンネルの登録を取り消します

- PMG画面で  キーを長押し
→ 現在選択されているPMGチャンネルの内容をVFOに転送してVFOモードになります

- デジタルモード時に周波数表示を短押しするとコンパス表示になり、相手局までの距離と方向がわかります。コンパス表示を短押しするとPMG画面に戻ります

PMG に周波数を登録する

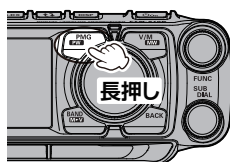
PMG に登録するには、VFO またはメモリーチャンネル画面で
 キーを長押しします
PMGチャンネルのP1 から順番にP5 まで登録されます



- PMG に登録できる周波数は最大5チャンネルです。さらに新しい周波数を登録すると古い方から順番に消去されます
- 既に登録されている周波数と同じ周波数を登録することはできません

PMG に登録した周波数を取り消す

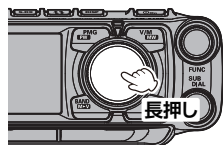
1. PMG画面でDIALツマミをまわして登録を取り消したいチャンネルにあわせませす
2.  キーを長押しします



PMG に登録されているチャンネル (周波数) を一括して全て取り消すことができます

1. FUNCツマミ長押し → 【22 PMG】を選択 → 【PMG CLEAR】を選択 → FUNCツマミを押す
2. FUNCツマミをまわして【OK】を選択 → FUNCツマミを押す

DIALツマミを長押しして **マニュアルモード** と **オートモード** を切り替えます



マニュアルモード

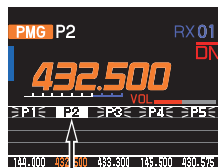
- ・ DIALツマミをまわすか画面をタッチして選んだチャンネルで送受信を行います。その他のチャンネルに信号が入っても同時に受信することができません
- ・ 送信は選んだチャンネルで送信します
- ・ 過去の受信信号強度をグレーで表示します（信号が無くなってから約2秒後に消えます）
- ・ 他のチャンネルに信号が入るとバーグラフで信号強度を表示して同時受信しますが、送信チャンネルは変わりません。他のチャンネルで送信するときはDIALツマミをまわすか、画面のチャンネルの近くをタッチしてチャンネルを替えます

聞きたいチャンネル（例：P2）にあわせませす

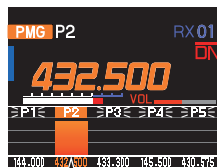
DIAL ツマミを
まわして P2 に
あわせませす

または

画面の P2 の近くを
タッチします



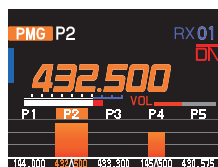
現在のチャンネル P2 を
受信しながら P1、P3 ～
P5 をスキャンします



P2 の音声を聞きながら
P1、P3 ～ P5 をスキャン
します

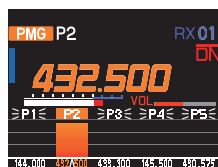


P2 以外に信号が
入ると（例：P4）



- ・ 信号強度をバーグラフで表示
- ・ スキャンが停止して P2 と P4 の音声が同時に聞こえます
- ・ 送信は P2 で行います
- ・ P4 で送信するときは DIAL をまわして P4 を選ぶか P4 のバーグラフをタッチします

P4 の信号が
無くなると



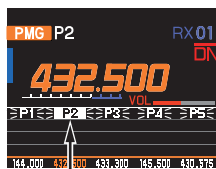
P2 の音声を聞きながら
P1、P3 ～ P5 を
スキャンします



P2 の音量は上側の VOL/SQL ツマミで調節できます
その他のチャンネルの音声は下側の VOL/SQL ツマミで調節できます

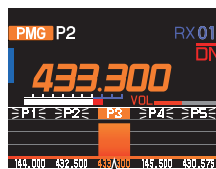
オートモード

- ・ スキャンしているチャンネルに信号が入ると、自動的に信号が入ったチャンネルに移動します。その他のチャンネルに信号が入っても同時に受信することができます
- ・ 信号が無くなるとスキャンを再開します
- ・ 送信は自動的に、移動したチャンネルでおこないます
- ・ 過去の受信信号強度をグレーで表示します（信号が無くなってから約2秒後に消えます）



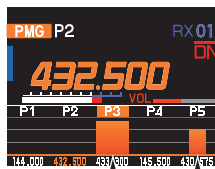
現在のチャンネル P2 を受信しながら P1、P3 ~ P5 をスキャンします

P3 に信号が入ると



- ・ 自動でチャンネルが P3 に替わり P3 の音声を聞きながら P1、P2、P4、P5 をスキャンします
- ・ 送信チャンネルも P3 になります

P5 に信号が入ると



- ・ スキャンが停止して P3 と P5 の音声が同時に聞こえます
- ・ 送信は P3 で行います
- ・ P5 で送信するときは DIAL をまわして P5 を選ぶか P5 のバーグラフをタッチします



P3 の音量は上側の VOL/SQL ツマミで調節できます
その他のチャンネルの音声は下側の VOL/SQL ツマミで調節できます

CFL(カスタマイズドファンクションリスト)

FUNCツマミのワンタッチ操作でファンクションリストを呼び出して、使用頻度の高い機能を簡単に操作することができます。登録されている優先機能の一覧や設定状態が一目で把握でき、FUNCツマミで選択して押すだけで機能の実行や設定変更ができます

ファンクションリストには工場出荷時設定で下記の機能が登録されていますが、よく使う機能を127種類のセットアップメニュー(71 ページ参照)の中から登録(最大8個)して、使い方に合わせてカスタマイズすることができます

ファンクションリスト表示例(工場出荷時設定)

周波数またはメモリーチャンネル番号を入力する画面を呼び出し

オレンジ色の項目は機能を実行します

グレーアウトの項目は現在では使用できません

キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スケルチ OFF	ARS AUTO
RPT-R	tone 88.5
DTMF	APRS OFF
>	

ホームチャンネルを呼び出し

白色の項目は設定を変更します

現在の設定値を表示します

● 工場出荷時設定でファンクションリストに登録されているセットアップメニュー番号と項目名

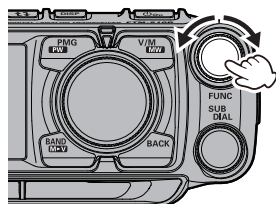
キーパッド	1 キーパッド(変更できません)	HOME CH	19 HOME CH(変更できません)
SCAN	51 SCAN	TXPWR	8 送信出力
スケルチ	45 スケルチ タイプ	ARS	25 RPT ARS
RPT-R	28 RPT リバース	tone	46 トーン周波数/DCSコード
DTMF	43 DTMF	APRS	75 APRS MODEM

ファンクションリストを使う

1. FUNCツマミを押します
2. 使いたい機能にタッチします
またはFUNCツマミをまわして使いたい機能を選択 → FUNCツマミを押す

● ファンクションリスト画面を閉じる

[S-DX]、[On]、FUNCツマミ、MAIN VOL/SQLツマミ以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります



キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スケルチ OFF	ARS AUTO
RPT-R	tone 88.5
DTMF	APRS OFF
>	

ファンクションリストへ登録する

1. FUNCツマミを長押しします
セットアップメニュー画面が表示されます
2. FUNCツマミをまわして登録したい項目を選びます

DISPLAY	
1 キーパッド	>
2 LCD 画面輝度	
3 周波数表示色	
4 パッド スコア	
MAX	

3. FUNCツマミを長押しします
ファンクションリスト画面が表示され、登録する項目が点滅して表示されます

※ 一番上に表示されている“キーパッド”と“HOME CH”は変更できません

キーパッド	HOME CH
画面輝度	TXPWR HIGH
スカル	ARS AUTO
RPT-R	TONE 88.5
DTMF	APRS OFF
Write to FUNCTION MENU	

4. FUNCツマミをまわして登録したい場所を選択します
すでに登録されている場所の場合は、項目が置き換わりますが、後から、同じ手順でセットアップメニューから元の項目を選択して登録し直すことができます

キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スカル	ARS AUTO
RPT-R	TONE 88.5
画面輝度	APRS OFF
Write to FUNCTION MENU	

5. FUNCツマミを押します
選択した場所に機能が登録されて、ファンクションリストが変更されます

キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スカル	ARS AUTO
RPT-R	TONE 88.5
画面輝度	APRS OFF
>	

ファンクションリストへの登録を取り消す

1. FUNCツマミを押します
ファンクションリスト画面が表示されます
2. FUNCツマミをまわして登録を取り消したい項目を選びます
※ 一番上に表示されている“キーパッド”と“HOME CH”の登録を取り消すことはできません

キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スカル	ARS AUTO
RPT-R	TONE 88.5
画面輝度	APRS OFF
MAX	

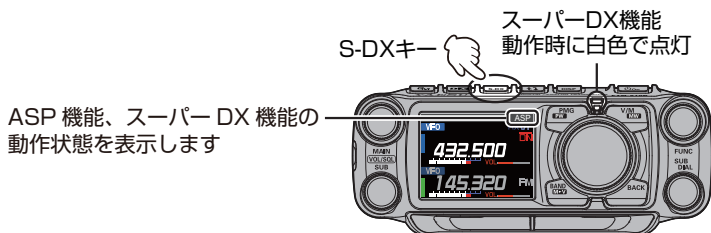
3.  キーを長押しします
確認画面が表示されます

4. FUNCツマミをまわして【OK】を選択して、FUNCツマミを押します
項目の登録が取り消されて、空欄になります

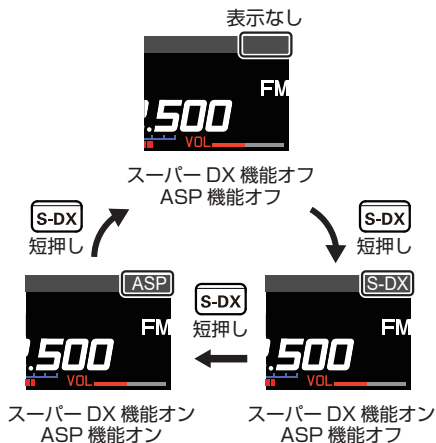
キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スカル	ARS AUTO
RPT-R	TONE 88.5
	APRS OFF

受信感度をアップさせる/ノイズを除去してクリアな音質にする

スーパー DX機能は、相手の受信電波が弱い時にRFアンプの感度をアップさせる機能です
“SPU-1”(Audio Digital Signal Processing Unit)装着時は、スーパー DX機能に加えて受信信号をAF帯域でデジタル処理しノイズ部分を分離して除去、音声部分を浮き上がらせるASP機能が動作して、よりクリアに聞きやすい音質で再生することができます。従来聞き取れなかった微弱信号でもクリアに受信することができます



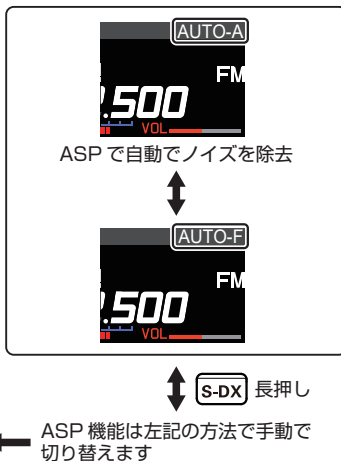
S-DX キー 短押し (マニュアル切り替え)



オートASP機能

S-DX キー 長押し

弱い信号で自動でASPが入りノイズを除去します。通常の信号ではASPは入りません。信号の強弱でその都度キー操作をする必要が無いオートASP機能です



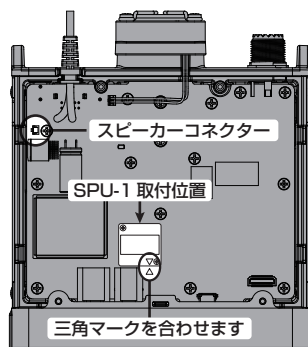
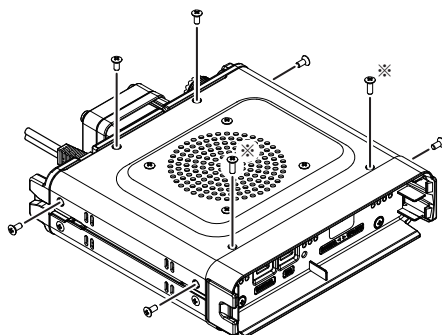
- ASP機能が動作しているときは、フロントスピーカーからのみ音が出ます
- デジタル信号のみを受信している時は、ASP機能は動作しません
- SPU-1 を装着していない場合は **S-DX** の短押しでスーパー DX機能のオン/オフのみを行います。ASP機能は動作しません
- オートASP機能は、メインバンドの信号強度を判断して動作します。同時受信中にサブバンドの信号で動作させたい時は **↕** キーを短押ししてメインバンドとサブバンドを入れ換えてください
- オートASP機能が動作中は **S-DX** の短押しは動作しません
- オートASP機能が動作中は常にスーパー DX機能が動作します

SPU-1 の取付けかた

1. 電源をオフにして、電源ケーブル、アンテナ、マイクを外します
2. 本体上面の4本のネジと両側面の各2本のネジを外します
3. 上面カバーをゆっくりと持ち上げます
カバー側に固定されているスピーカーと本体内部の基板を接続しているケーブルを切らないように注意してください
4. スピーカーのケーブルを本体基板のコネクタから抜きます
5. SPU-1 を基板のコネクタに合わせて差し込みます
SPU-1 と基板の“▲”を合わせてください
6. SPU-1 に付属のネジ2本で、SPU-1 を基板に固定します
7. 以上でSPU-1 の取り付けは完了です
スピーカーケーブルのコネクタ、上面カバーを元通りに取付けて、電源ケーブル、アンテナ、マイクを接続します



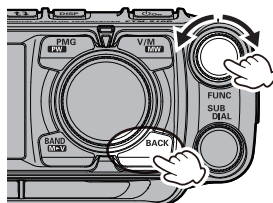
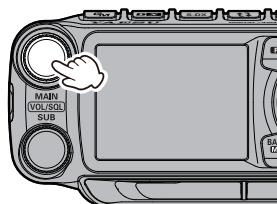
上面前側の2本のネジ（※印）は、他の6本のネジよりも長いネジを使用していますので間違えないようにご注意ください



AESS (Acoustic Enhanced Speaker System)

コントロールヘッドにスピーカーを搭載し、フロントスピーカーと本体スピーカーを併用する AESSデュアルスピーカー方式を採用し、拡がりのある一体感のある優れた再生音を得ています
長時間のオペレーションでも疲れの少ない拡がりのあるクリアな音を再生します

1. **VOL/SQL(MAIN)**ツマミを長押しします
または**FUNC**ツマミ長押し→“18 オーディオコライザー”
2. **FUNC**ツマミを押します
3. **FUNC**ツマミをまわしてコントロールヘッドスピーカーの音質を設定します
OFF : AESS を使用しない標準の音質
FLAT : 音質を変えずに AESS を使用する
HI PITCH : 高域を強調した音質
LOWPITCH : 低域を強調した音質
BPF : 高域と低域を減衰した音質
4.  キーを押します
5. 同様に**FUNC**ツマミをまわして“REAR TONE” “REAR OUT” “AESS PHASE”の各項目を選択して**FUNC**ツマミを押します
6. **FUNC**ツマミをまわして、下表を参照して設定します



7. 、、 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります

FRONT TONE

項目	動作
OFF	AESS を使用しない標準の音質 ※OFF の場合は “REAR OUT” 以外は設定できません
FLAT	音質を変えずに AESS を使用する
HI PITCH	高域を強調した音質
LO PITCH	低域を強調した音質
BPF	高域と低域を減衰した音質

REAR TONE

項目	動作
FLAT	音質を変えずに AESS を使用する
HI PITCH	高域を強調した音質
LO PITCH	低域を強調した音質
BPF	高域と低域を減衰した音質
1kHz	1kHz以上の高域部分をカットします
700Hz	700Hz以上の高域部分をカットします

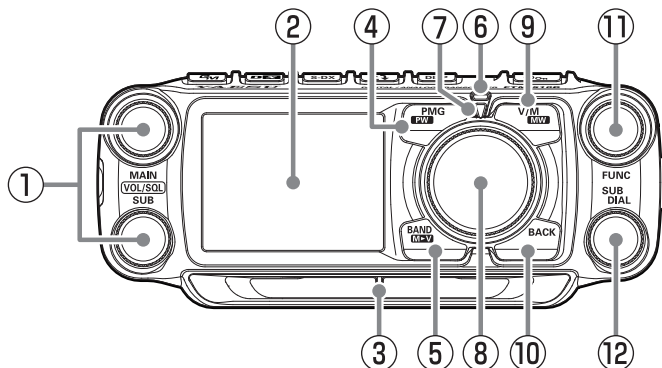
REAR OUT

項目	動作
0% ~ 100%	本体スピーカーの出力レベル

AESS PHASE

項目	動作
OFF	遅延を変えずに AESS を使用する
1.25ms ~ 20.00ms	本体スピーカーの出力をコントロールヘッドスピーカーの出力より遅らせて出力する時間の設定

コントロールヘッド(前面)



① VOL/SQLツマミ

メインバンド(画面上側)およびサブバンド(画面下側)の受信音量を調節します

押してからまわすと、スケルチレベルを調節できます。アナログFM特有の信号を受信していないときの“ザー”というノイズが入る場合に調節します

② フルカラーディスプレイ

周波数や各種の機能、設定を表示します

③ スピーカー

本体スピーカーと併用するAESSデュアルスピーカーシステムで、拡がりがあり体感のある優れた再生音で長時間のオペレーションでも疲れの少ないクリアな音を再生します

④ キー

● 短押し

PMG(プライマリーメモリーグループ)画面を表示します

- DIALツマミを長押しするとオートモードとマニュアルモードを切り替えることができます
- マニュアルモードでは、DIALツマミで選択したチャンネルで送受信し、他のチャンネルに信号が入ると同時受信します
- オートモードでは、選んだチャンネルを受信しながらスキャンして、信号が入ったチャンネルに自動で移動し、最大2チャンネルを同時受信します。送信は自動的に、受信したチャンネルに移動して行います
- もう一度押すとPMGモードが解除されます

● 長押し

PMGへ周波数の登録ができます

長押しするだけで、VFOモードまたはメモリーモードで表示されている現在の周波数をPMGに登録できます

⑤ キー

VFOモード時

● 短押し

押すたびに運用周波数帯(バンド)が切り替わります

バンド	選択できる周波数帯
航空無線帯	108MHz ~ 137MHz
144MHz/VHF帯	137MHz ~ 174MHz
VHF/UHF帯	174MHz ~ 400MHz
430MHz/UHF帯	400MHz ~ 550MHz

● 長押し

短押ししたときに表示するバンドを設定できます

メモリーモード時

● 短押し

メモリーオートグルーピング(MAG)機能により押す度に、下記のように同じ周波数帯のメモリーチャンネルだけを自動的にグループ化して呼び出します

グループ	呼び出せるメモリーチャンネル
M-ALL	全てのメモリーチャンネル
M-AIR	航空無線帯(108MHz ~ 137MHz)のメモリーチャンネル
M-VHF	144MHz帯(137MHz ~ 174MHz)のメモリーチャンネル
M-UHF	430MHz帯(400MHz ~ 550MHz)のメモリーチャンネル
OTHER	174MHz ~ 400MHzのメモリーチャンネル
M-GRP	バンド(周波数帯)に関係なく、あらかじめグループに登録したメモリーチャンネルだけを呼び出します

● 長押し

呼び出し中のメモリーチャンネルの内容をVFOに転送してVFOモードになります

⑥ スーパー DX機能インジケータ

コントロールヘッド上面の **[S-DX]** キーを押して、受信感度を一時的にアップさせるスーパー DX機能が動作中に白色で点灯します

⑦ モードインジケータ

現在の運用モードをインジケータの点灯で表示します

青	VFOモード VFO 呼び出し時 メモリーモード M-GRP 呼び出し時
緑	メモリーモード M-ALL 呼び出し時
赤	メモリーモード M-AIR / M-VHF M-UHF / OTHER 呼び出し時
オレンジ	PMGモード PMG 呼び出し時

⑧ MAIN DIALツマミ

メインバンド (画面上側) の周波数変更やメモリーチャンネルの選択をします

- VFOモードで押してからまわすと1MHz単位で周波数を変更できます
- メモリーモードで押してからまわすと、10チャンネルステップで選択できます

⑨ キー

● 短押し

押すたびにVFOのデータとメモリーチャンネルのデータが交互に呼び出されます
メモリーチャンネルに保存されたデータが呼び出されたときは、表示が“VFO”から“M-ALL 001”のように替わり、メモリーチャンネルの番号が表示されます。メモリーチャンネルは最後に呼び出したメモリーチャンネルが呼び出されます

● 長押し

メモリーチャンネルリスト画面が表示されます
メモリーへの登録や既にメモリーされているデータの呼び出し、編集を行うことができます

⑩ キー

● 短押し

現在操作している1つ前の画面に戻ります

● 長押し

ファンクションリスト画面で長押しすると、選択中の項目の登録を解除します

⑪ FUNCツマミ

● 短押し

CFL(カスタマイズドファンクションリスト)を表示します

セットアップメニュー(70ページ参照)から、登録した項目(最大8項目)だけが項目と設定値が一覧で表示され、FUNCツマミで素早く選択して使う事ができます

キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スケルチ OFF	ARS AUTO
RPT-R	STONE 88.5
DTMF	APRS OFF
➤	

“キーパッド”と“HOME CH”は変更できません(18ページ参照)

ファンクションリストへ登録:

FUNCツマミ長押し → FUNCツマミで登録する項目を選択 → FUNCツマミ長押し → FUNCツマミで登録する場所を選択 → FUNCツマミを押す

登録取り消し:

ファンクションリストで、FUNCツマミで登録を取り消したい項目を選択 →  キー長押し

● 長押し

“セットアップメニュー”を表示します

機能の実行や設定変更を行うことができます

⑫ SUB DIALツマミ (サブバンド側)

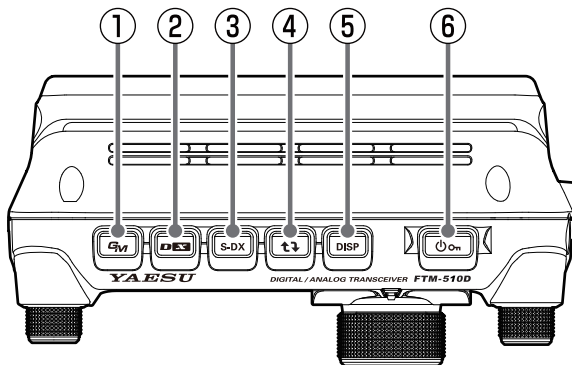
サブバンド (画面下側) の周波数変更やメモリーチャンネルの選択をします

- VFOモードで押してからまわすと1MHz単位で周波数を変更できます
- メモリーモードで押してからまわすと10チャンネルステップで選択できます
- メモリーチャンネルリスト画面では、メモリーチャンネルを10チャンネルステップで選択できます
- セットアップメニュー中にまわすと、セットアップメニューの各カテゴリーの項目にジャンプします

右にまわす → 各カテゴリーの先頭項目にジャンプ

左にまわす → 各カテゴリーの最終項目にジャンプ

コントロールヘッド (上面)



① **GM** キー

● 短押し

GM(グループモニター)機能がオンになり、他の局が交信可能範囲にいるかを自動でチェックします

- GM機能を使うには、相手局もGM機能をオンにしている必要があります
- GM機能についての詳しい説明は、取扱説明書(GM編)を参照してください(当社ウェブサイトからダウンロードできます)

● 長押し

DG-ID番号の設定画面を表示します

1. FUNCツマミをまわして [DG-ID TX] (送信のDG-ID番号)または [DG-ID RX] (受信のDG-ID番号)を選んでFUNCツマミを押します
2. FUNCツマミをまわしてDG-ID番号を選んで(00～99から選べます) FUNCツマミを押します
 - FUNCツマミを長押しすると、送受信の両方のDG-ID番号を“00”に戻すことができます

② **DES** キー

● 短押し

押すたびに通信モードが切り替わります

AMS(**DN** / **FM**) → DN → FM → AMS・・・

通常は、相手局のモードに自動でこちらの通信モードをあわせて相手局の信号を受信することができます“AMS”(表示例：**DN** / **FM**)にあわせておきます

● 長押し

WIRES-Xモードになります

インターネットを利用したデジタル通信システムで遠距離の相手局との通信を行うことができます。もう一度、長押しすると通常の運用画面に戻ります

WIRES-Xについての詳しい説明は、取扱説明書(WIRES-X編)を参照してください(当社ウェブサイトからダウンロードできます)

③ **S-DX** キー

受信感度を一時的にアップさせるスーパー DX機能が動作します。SPU-1を装着することでノイズキャンセル機能が追加され、よりクリアで聞きやすい音質で再生することができます

④ **t↕** キー

● 短押し

押すたびにメインバンド(画面上側に表示されているバンド)とサブバンド(画面下側に表示されているバンド)が切り替わります

● 長押し

メインバンド(画面上側に表示されているバンド)の周波数をサブバンド(画面下側に表示されているバンド)にコピーします

⑤ **DISP** キー

● 短押し

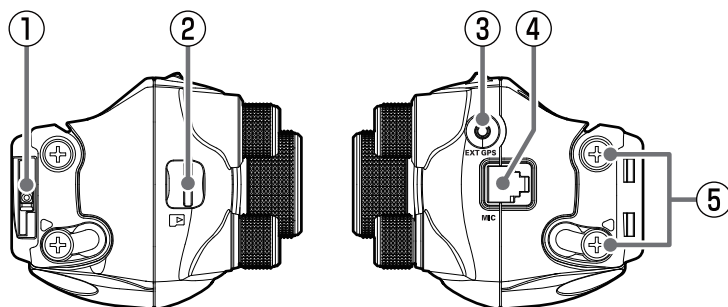
現在の周波数またはメモリーチャンネルを中心として、上下の周波数の状態(信号強度)をグラフで表示するスコープ画面になります。もう一度、押すと通常の画面に戻ります(12ページ参照)

⑥ **On** (電源/ロック)キー

- 長押しして電源をオン/オフします

- 電源がオンのときに押すと、VOLツマミ以外のツマミと各キーがロックします。もう一度押すとロックが解除されます

コントロールヘッド (側面)



① リリースノブ

コントロールヘッドを無線機本体から取り外すときに押します

② microSDカードスロット

市販のmicroSDカードを挿入します。無線機の各種設定のバックアップ、メモリーチャンネルのバックアップ、受信音声の録音、などをおこなうことができます

③ EXT GPSジャック

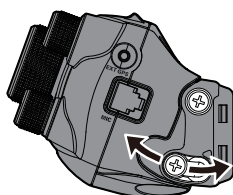
外部GPS機器と接続するためのプラグを差し込みます。通信速度は 9600bps で、変更することはできません

④ MICジャック

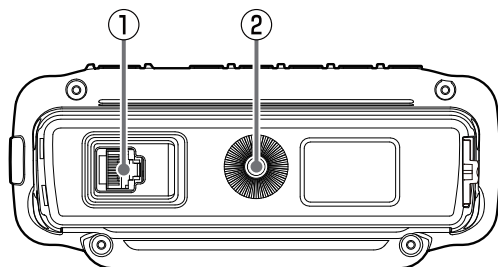
付属のマイクロホンSSM-85D またはオプションのマイクロホンMH-42C6J を接続します

⑤ コントロールヘッド角度調節ネジ

このネジを緩めるとコントロールヘッドの角度を変えることができます



コントロールヘッド (後面)



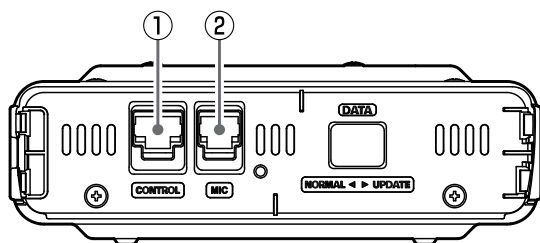
① CONTROLジャック

無線機本体と接続するためのコントロールケーブルを差し込みます

② ブラケット用ネジ穴

オプションのコントロールヘッド用ブラケットを取り付けます (37 ページ参照)

本体 (前面)



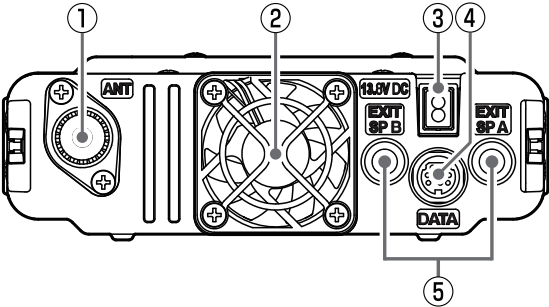
① CONTROLジャック

付属のコントロールケーブルやオプションのコントロールヘッド延長ケーブル(6m) を接続します

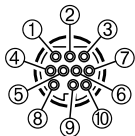
② MICジャック

付属のマイクロホンSSM-85D またはオプションのマイクロホンMH-42C6J を接続します

本体（後面）



- ① **ANT端子**
アンテナを接続します
- ② **冷却ファン (FTM-510D のみ)**
- ③ **13.8V DC**
付属のDC電源ケーブルで、電源と接続します
- ④ **DATA端子**
WIRES-XインターフェースキットHRI-200 やパソコン用インターフェースケーブルなどを接続します
クローン機能を使う場合に、他のFTM-510D/DS とオプションのクローンケーブル (CT-166) で接続します



- ① PKD (バケットデータインプット)
- ② GND
- ③ PKS (PTT)
- ④ RX 9600bps (バケットデータアウトプット)
- ⑤ RX 1200bps (バケットデータアウトプット)
- ⑥ PK SQL (スケルチ制御)
- ⑦ TXD (シリアルデータアウトプット)
- ⑧ RXD (シリアルデータインプット)
- ⑨ CTS (データ通信制御)
- ⑩ RTS (データ通信制御)

- ⑤ **外部スピーカージャック**
外部スピーカーを接続するモノラルジャック (φ 3.5mm) です。接続のしかたにより、出力される音声の条件が異なります

	AESS	ジャックAからの音声	ジャックBからの音声	本体内蔵スピーカーからの音声
A だけに接続	オフ	MAINバンドとSUBバンド 両方の音声	—	—
	オン	—	—	—
B だけに接続	オフ	—	SUBバンドの音声	MAINバンドの音声
	オン	—	MAINバンドとSUBバンド 両方の音声	—
A と B に接続	オフ	MAINバンドの音声	SUBバンドの音声	—
	オン	—	MAINバンドとSUBバンド 両方の音声	—

※ フロントスピーカーは外部スピーカーを接続しても音声を出します。音声が出ないようにするには、セットアップメニュー [42 フロントスピーカーミュート] を “AUTO MUTE” に設定してください

マイクロホン (SSM-85D)

① マイク

マイクと口元の間隔を 5cm 位離し、普通の声量で話してください

② TXインジケータ

PTT を押した時に赤色に点灯します

③ PTTスイッチ

- 送信と受信を切り換えるスイッチです。押している間“送信”、放すと“受信”になります
- セットアップメニュー中に押すと、セットアップメニューを終了します

④ DWNキー

- 周波数やメモリーチャンネルが 1 ステップ低くなり、押し続けるとスキャンを開始します
- メモリーチャンネルリスト画面で押すと、メモリーチャンネルを 10 チャンネルステップで選択できます
- セットアップメニュー中に押すと、セットアップメニューの各カテゴリの最後の項目にジャンプします

⑤ UPキー

- 周波数やメモリーチャンネルが 1 ステップ高くなり、押し続けるとスキャンを開始します
- メモリーチャンネルリスト画面で押すと、メモリーチャンネルを 10 チャンネルステップで選択できます
- セットアップメニュー中に押すと、セットアップメニューの各カテゴリの先頭項目にジャンプします

⑥ MUTEキー

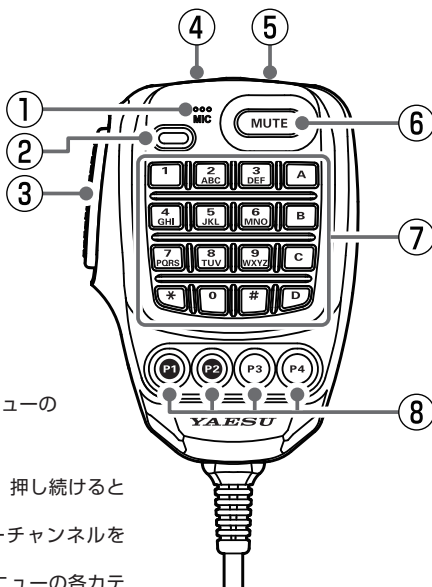
押すと受信音がミュート (消音) されます。もう一度押すとミュートは解除されます

⑦ キースイッチ

送信中に DTMF を送出します。また、下記の操作ができます



プログラムキー (P1/P2/P3/P4) に割り当てた 2nd PTT (次ページ参照) で送信中は、DTMF の送出はできません



0～9: 周波数やメモリーチャンネル番号を入力します

A : 機能は割り当てられていません

B : メインバンド (画面上側) とサブバンド (画面下側) が入れ替わります

C : スケルチレベルを調節します

D : スコープ機能が動作します

* : 押すたびに VFO モードとメモリーモードが切り替わります

: ・ VFO モード時は、押すたびに運用周波数帯 (バンド) が切り替わります

・メモリーモード時は、メモリーオートグルーピング (MAG) 機能により、同じ周波数帯のメモリーチャンネルだけを自動的にグルーピングして下記の順に切り替わります



⑧ プログラムキー(P1/P2/P3/P4)

[P1]/[P2]/[P3]/[P4] の各キーには、下表の機能が割り当てられています

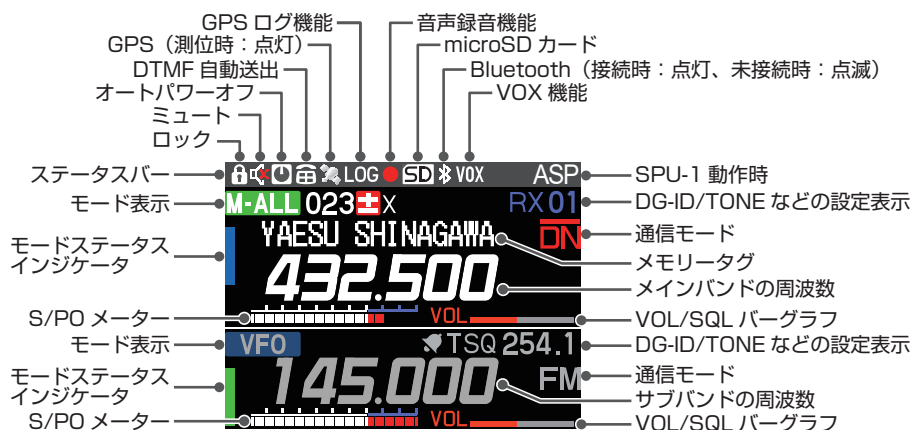
キー	工場出荷時設定	短押し	長押し
P1	2nd PTT	SUBバンド (画面下側の周波数) で送信	
P2	HOME CH	ホームチャンネル呼び出し	
P3	D_X	通信モードの切り替え	WIRES-X機能が動作
P4	TX POWER	送信出力の切り替え	

P1/P2/P3/P4 キーは下記の操作で機能を割り当てることができます

1. FUNCツマミを長押しします
2. **[29 マイク プログラムキー]** にタッチします
または、FUNCツマミをまわして **[29 マイク プログラムキー]** を選択してFUNCツマミを押します
3. FUNCツマミをまわして機能を割り当てたいキー**[P1]/[P2]/[P3]/[P4]** を選択します
4. DIALツマミをまわして機能 (下表参照) を選択してFUNCツマミを押します

項目	機能
OFF	プログラムキーの動作をオフにします
2nd PTT	SUBバンド (画面下側の周波数) で送信します
GM	短押しでGM機能が動作します。長押しでDG-ID設定画面を表示します
REC/STOP	音声録音機能の“録音開始”と“録音停止”を行います
SCAN	スキャンが開始または停止します
HOME CH	ホームチャンネルの呼び出しまたは解除
RPT SHIFT	レピータシフト方向を設定します
REVERSE	レピータ運用時やスプリットメモリー呼び出し中に、送信と受信の周波数を一時的に入れ替える“リバース機能”が動作します
TX POWER	送信出力を設定します
SQL OFF	スケルチをオープンにします
T-CALL	T-CALL機能が動作します。通常は選択しないでください
VOICE	周波数などを読み上げます (オプションのボイスガイドユニットFVS-2 取り付け時のみ)
D_X	短押しで通信モードの切り換え、長押しでWIRES-X機能が動作します
PR FREQ	JR以外の空線スケルチの周波数を設定します
STN LIST	APRS機能のステーションリストを表示します
MSG LIST	APRS機能のメッセージリストを表示します
REPLY	APRS機能の返信メッセージの書き込みモードを呼び出します
MSG EDIT	APRS機能のメッセージの書き込みモードを呼び出します
DW	デュアルレシーブ機能の動作を“開始”と“停止”を行います

ディスプレイ



● ステータスバー

	キーやDIALツマミなどをロック
	サブバンドのミュート機能がオン
	APO(オートパワーオフ)機能がオン
	DTMF の自動送出がオン
	内蔵GPS または外部接続GPS機器により測位中のとき
LOG	GPSログ (自動軌跡保存)機能がオン
	受信音声録音中 (スケルチが閉じて約 3 秒経過後、自動で録音が一時停止している時は“ ”を表示)
SD	microSDメモリーカードが挿入されている
	Bluetooth機能がオン (点灯：接続中、点滅：未接続)
VOX	VOX機能がオン
ASP	ASP機能が動作時
S-DX	スーパー DX機能が動作時
AUTO-A	ASPオート機能が動作中で、ASP機能が動作しているとき
AUTO-F	ASPオート機能が動作中で、ASP機能が動作していないとき

● メインバンド/サブバンドの表示エリア

モード表示 (タッチするたびにVFOモードとメモリーモードが切り替わります)

メモリーモード時に  キーを押すと、オートグルーピング (MAG)機能で、同じ周波数帯のメモリーチャンネルだけを自動的にグルーブ化して呼び出します

M-ALL : バンド (周波数帯) に関係なく、全てのメモリーチャンネルを番号順に呼び出します

M-AIR : AIRバンド帯 (108MHz ~ 137MHz) のメモリーチャンネルだけを呼び出します

M-VHF : VHF帯 (137MHz ~ 174MHz) のメモリーチャンネルだけを呼び出します

M-UHF : UHF帯 (400MHz ~ 550MHz) のメモリーチャンネルだけを呼び出します

OTHER : 174MHz ~ 400MHz のメモリーチャンネルだけを呼び出します

M-GRP : バンド (周波数帯) に関係なく、あらかじめグループに登録したメモリーチャンネルだけを呼び出します

PMG : PMG (プライマリーメモリーグループ) 機能

VFO : VFOモード

HOME : ホームチャンネル

 レピータシフト (マイナスシフト)

 レピータシフト (プラスシフト)

 スプリットメモリー (送信と受信で異なる周波数を使用するメモリー)

 スキップメモリーチャンネル (メモリスキャン時にスキャンされなくなります)

 ベル機能がオン

C4FMデジタルモードの送受信のDG-ID番号を表示

TX00 : 送信のDG-ID番号 (送信中にのみ表示されます)

RX00 : 受信のDG-ID番号

モードステータスインジケータ

赤色 : 送信中

青色 : デジタルモードで受信中

緑色 : FMモードで受信中

白色 : AMモードで受信中

アナログFMモードのスケルチタイプを表示 (詳しくは取扱説明書 (詳細編) を参照してください)

TN : トーンエンコーダー (トーン周波数を表示します)

TSQ : トーンスケルチ (トーン周波数を表示します)

RTN : リバーストーン (トーン周波数を表示します)

DCS : DCS (デジタルコードスケルチ) (DCSコードを表示します)

PR : 空線スケルチ

PAG : ページャー (EPCS)

JR : JR空線スケルチ

以下のスケルチタイプはセットアップメニュー“47 スケルチ拡張機能”(73 ページ参照) が“ON”の場合に設定できます

DC : 送信時のみDCSコードを送出する (DCSコードを表示します)

T-D : 送信時にトーン信号を送出し、受信時にDCSコードで待ち受け (トーン周波数を表示します)

D-T : 送信時にDCSコードを送出し、受信時にトーン信号で待ち受け (DCSコードを表示します)

通信モードアイコン (タッチするたびにモードが切り替わります)

FM : FM(アナログ)モード

AM : AM(アナログ)モード

DN : DN(V/D)モード (音声/データ同時通信モード)

VW : VW(Voice FR)モード (音声フルレートモード)

DW : DW(Data FR)モード (データフルレートモード)

FM : AMS(オートマチックモードセレクト) FM(アナログ)モード

DN : AMS(オートマチックモードセレクト) DNモード

VW : AMS(オートマチックモードセレクト) VWモード

DW : AMS(オートマチックモードセレクト) DWモード



- ・デジタルモードは赤色のアイコンで表示されます
- ・アイコンの上側のバーはAMS(オートマチックモードセレクト)機能がオンであることを示しています。AMS送信モードをデジタルまたはFMモードに固定している場合はアイコンの上側のバーが点滅します。
- ・DWモードは画像通信時などに自動で選択されますので、手動でDWモードを選択することはできません



: Sメーター(受信信号の強さを 10 段階で表示)



: POメーター 送信出力HIGH 約 50W/約 20W^{*} (送信時に表示)



: POメーター 送信出力MID 約 25W/約 10W^{*} (送信時に表示)



: POメーター 送信出力LOW 約 5W/約 1W^{*} (送信時に表示)

※FTM-510DS の場合



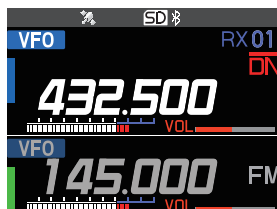
: 受信音の音量レベル



: SQLレベル

主な表示画面

● 通常画面



メインバンドとサブバンドを上下 2 段で表示します

- ・上側に表示されているバンド (メインバンド) で送信ができます
- ※ メインバンドとサブバンドを同時に受信することができます

● PMG画面



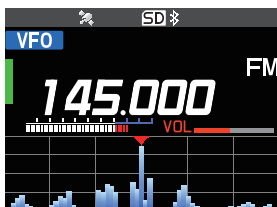
キーを押すとPMG(プライマリーメモリーグループ)画面が表示されます。登録チャンネルの受信状態をバーグラフで表示するPMG機能は、VFO、メモリーチャンネルに関係なく現在の表示周波数を  キーを長押しするだけで、最大 5 チャンネルまで登録できます

PMG画面にはマニュアルモードとオートモードがあり、DIAL ツマミを長押しして切り替えることができます

● バンドスコープ画面

[DISP] キーを押すとバンドスコープ画面が表示されます

現在の周波数またはメモリーチャンネルを中心として、上下のチャンネルの状態（受信信号の強弱）を連続でサーチしてバーグラフで表示します。中心周波数で信号を受信すると、音声を聞くことができます



- DIALツマミをまわして、中心の周波数やメモリーチャンネルを変更できます
- 表示するチャンネル数は、VFOモード時は 61ch または 31ch、メモリーモード時は 21ch または 11ch を選択できます（“スコープ動作時の画面に表示するチャンネル数を変える”（12 ページ）を参照）

● CFL(カスタマイズドファンクションリスト)画面

FUNCツマミを押すとセットアップメニュー（70 ページ参照）の中から、登録した項目だけを表示するファンクションリスト画面が呼び出されます。通常の運用画面に戻るには、[S-DX]、[INFO]、[On] キー、FUNCツマミ以外のキーやツマミまたは PTT を押します

工場出荷時設定では、ファンクションリストに下表の項目が登録されていますが、いつでも項目の登録/変更や登録の取り消しをすることができます

キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スケルチ OFF	ARS AUTO
RPT-R	TOPE 88.5
DTMF	APRS OFF
>	

1 キーパッド (固定)*	19 HOME CH(固定)*
51 SCAN	8 送信出力
45 スケルチ タイプ	25 RPT ARS
28 RPT リバース	46 トーン周波数/DCS
43 DTMF	75 APRS

* “キーパッド” と “HOME CH” は変更できません

● セットアップメニュー画面

FUNCツマミを長押しするとセットアップメニュー画面が表示されます

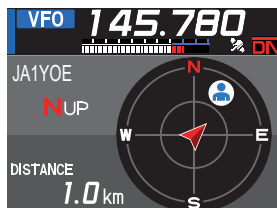
セットアップメニューでは、さまざまな機能を選択して、無線機を使いやすく設定できます

DISPLAY	
1 キーパッド	>
2 LCD 画面輝度	
3 周波数表示色	
4 バンド スコープ	
>	

セットアップメニューから通常の運用画面に戻るときは [S-DX]、[INFO]、[On] キー、FUNCツマミ以外のキーやツマミまたは PTT を押します

● コンパス画面

位置情報が含まれている C4FM信号を受信中に画面をタッチすると、相手局の距離と方向をコンパス画面で表示します



- [N]: 相手局の方向
- [A]: 自局の進行方向
- コンパス表示にタッチすると、前の画面に戻ります

●バックトラック画面

FUNCツマミ長押し→【7 ディスプレイ モード】→【BACKTRACK】

C4FMデジタルのDNモードで通信中、自局から見た相手局の距離と方向をリアルタイムに表示することができます（相手局の信号に位置情報が含まれている必要があります）。また、出発地点や相手局の現在地などを3カ所（“★”、“L1”、“L2”）まで登録して、現在地から見た登録地点の距離と方位をリアルタイムに表示してナビゲーションします

●高度画面

FUNCツマミ長押し→【7 ディスプレイ モード】→【ALTITUDE】

GPS信号を利用した高度をグラフで表示します

●タイマー/クロック画面

FUNCツマミ長押し→【7 ディスプレイ モード】→【TIMER/CLOCK】

時計、ラップタイマー、カウントダウンタイマー機能があります

●GPSインフォメーション画面

FUNCツマミ長押し→【7 ディスプレイ モード】→【GPS INFORMATION】

GPS衛星から受信した信号の状態や各種情報などを表示します

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けている、との連絡を受けた場合はただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください

参考 無線局運用規則 第8章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときには、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。（以下省略）

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じて、お買いあげの販売店または、当社カスタマーサポート（電話：0570-088013）に相談するなどして、適切な処置を行ってください

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで難しい場合もあります

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟（JARL）では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟（JARL）

〒170-8073 東京都豊島区南大塚 3-43-1 大塚 HT ビル 6 階

TEL 03-3988-8754

無線機の設置と接続方法

モバイル運用についてのご注意

- ◎ 自動車内で電源ケーブルを配線する場合、保護用テープを巻いたり、保護用のチューブなどを被せてください
電源ケーブルと板金部がこすれて、被覆が破れると発火や故障の原因となることがあります
- ◎ 自動車内に設置するときは、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは、次のような制御装置やハーネスから20cm以上はなして取り付けてください
 - ・ エンジン関係：燃料噴射装置/エンジンコントロールユニット
 - ・ トランスミッション関係：電子制御式変速機/4WDコントロールユニット
 - ・ その他：ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン/オートヒーターコントロールユニット/Gセンサー
- ◎ 無線機およびオプションは、安全運転に支障がないように配線してください
- ◎ 無線機およびオプションは、前方の視界や運転操作を妨げる場所、運転に支障をきたす場所、同乗者に危険をおよぼす場所などには絶対に取り付けしないでください。交通事故やけがの原因になります
- ◎ エアバッグシステム装備車に無線機およびオプションを取り付けるときは、エアバッグの近くに取り付けたり、配線をしないでください。万一のとき動作したエアバッグで本機が飛ばされ、事故やケガの原因となります
また、ケーブル類が妨げとなり、エアバッグが正常に動作しないことがあります

- ◎ 自動車に無線機を取り付けたあと、無線機の電源を入れた状態で、自動車のブレーキランプ、ヘッドライト、ウインカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください
- ◎ 自動車の制御装置に少しでも異常を感じた場合には、安全な場所に自動車を停車させて直ちにエンジンを停止し、無線機の電源をオフにして、点検してください
- ◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を見つづけたりしないでください。無線機を操作、または表示部を見る場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください
- ◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください
- 一部都道府県では、運転中にイヤホンなどを使用することが規制されています
- ◎ 電気自動車やハイブリッドカーなどで無線機をご使用になる場合、インバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります

設置上のご注意

本機を設置するときは、次のことにご注意ください

- ◎ 直射日光の当たる所、高温になる所、湿気の多い所、ホコリなどが多い所、極端に振動が多い所に設置しないでください
- ◎ 送信を繰り返すと本体が高温になりますので、放熱の妨げにならないような場所に設置してください

アンテナと電源の設置

本機は 50 Ω のアンテナに整合するように設計してあります

無線機のパフォーマンスに大きく影響しますので、アンテナと同軸ケーブル・同軸ケーブルと本機の間をの整合を確実にとり、SWR が 1.5 以下になるように調節してください

アンテナは非常に高い電圧になることがあります。人体などに容易に触れることがないように設置してください
本機とアンテナを結ぶ同軸ケーブルは、50 Ω の良質な同軸ケーブルをご利用ください



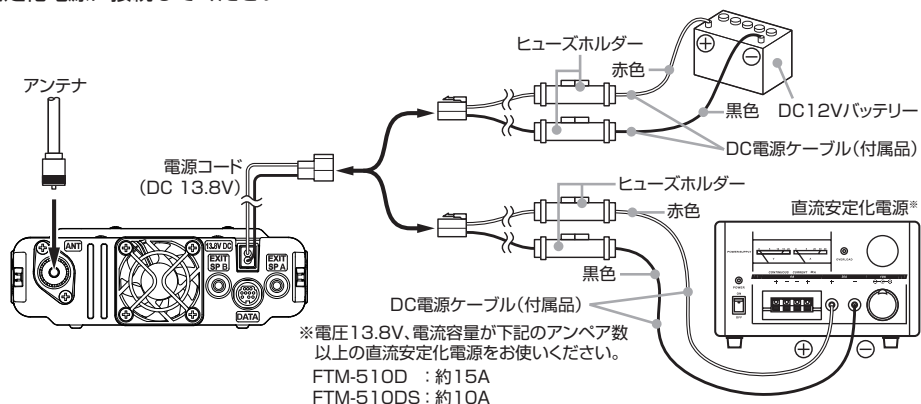
通常、人が出入りできるような場所（屋上やベランダなど）にアンテナを設置する場合は、その高さが人の歩行、その他起居する平面から 2.5m 以上となるように設置してください（電波法施行規則 第 25 条参照）



- 車のボディにバッテリーのマイナス（-）電極が接続してある“マイナス接地”の車でご使用ください
- 充電制御機能のある車では、直接バッテリーの電極に接続するのではなく、無線機の電流が車に設置されている電流センサーを通過するように接続してください（例：マイナス側にセンサーが設置されている車の場合は、DC 電源ケーブルのマイナスは車のボディアースに接続するなど）
- 12V 型バッテリーを使用している車でご使用ください。24V 型バッテリーを使用している車で使用するときには、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにご相談ください

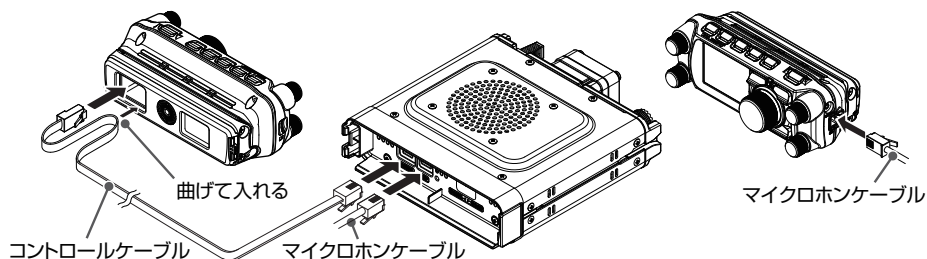
アンテナと電源の接続

送信時は大電流が流れますので、必ず付属の DC 電源ケーブルを使用して、バッテリーまたは直流安定化電源に接続してください



無線機/コントロールヘッド/マイクロホンの接続

コントロールヘッドと無線機本体は、コントロールケーブルでそれぞれの“CONTROL”端子同士を接続します。付属のマイクロホンSSM-85Dを無線機本体またはコントロールヘッドの“MIC”端子に接続します



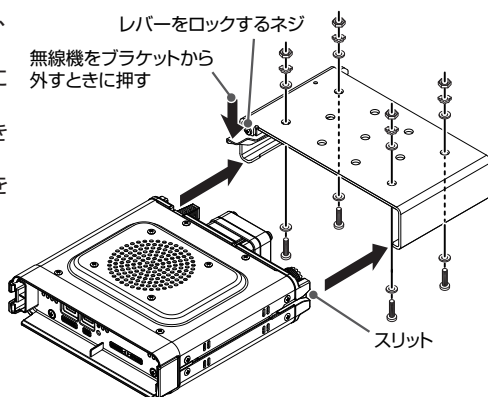
無線機本体を設置する



- 振動で外れないようにしっかり固定できる場所を選んでください
- 付属のネジ以外は使用しないでください

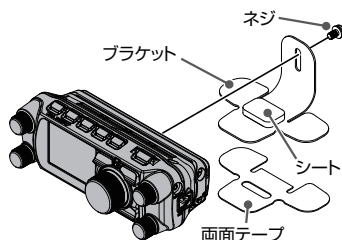
右図を参照して、付属のブラケットを固定して、無線機本体を取り付けます

- ・ ブラケットは、無線機本体の上下どちら側にも取り付けることができます
- ・ 無線機を外す時は、レバーを押しながら引き抜きます
- ・ レバー部分にあるネジを締めると、レバーをロックすることができます



● オプションのダッシュマウントブラケット “MMB-103” を使用する

- ・ ネジ、シート、両面テープはブラケットに付属しています
- ・ ブラケットに付属のネジ以外は使用しないでください
- ・ ブラケットは設置する場所にあわせて手で曲げられます



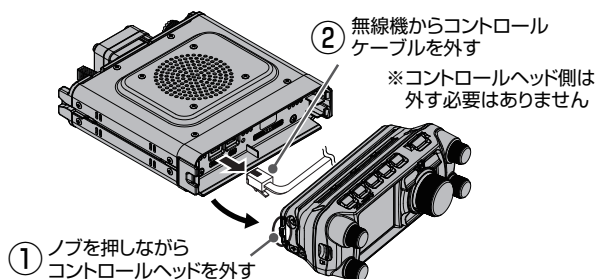
オプションのスイングヘッドキット“SJMK-500”を使用する

オプションのコントロールヘッド延長ケーブル“CT-132”は必要ありません

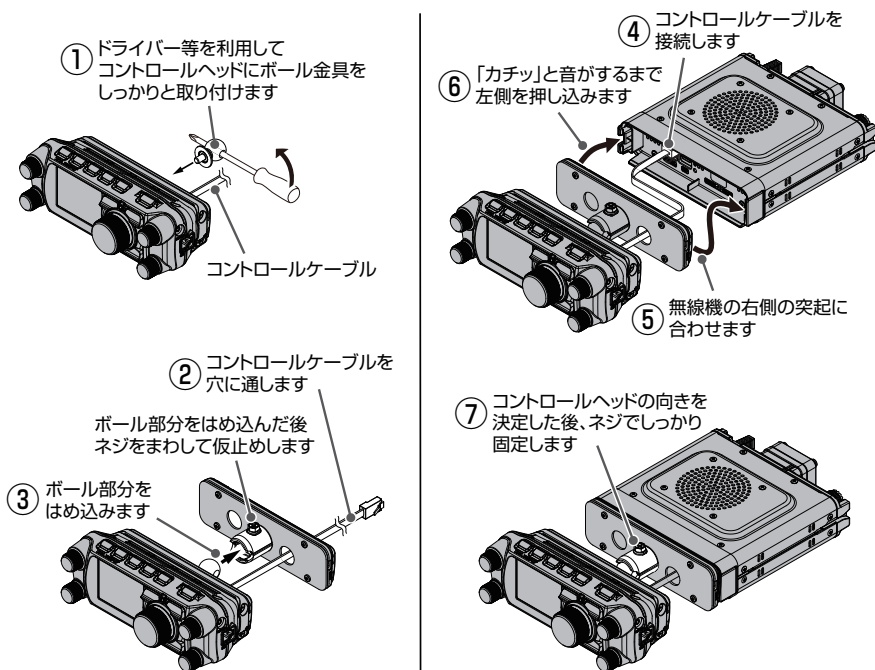
コントロールヘッドのアングルを上下左右に自由に変えることができます

●コントロールヘッドを無線機本体から外す

SJMK-500 を取り付けるために、コントロールヘッドを無線機本体から外します



●コントロールヘッドにSJMK-500 を取り付ける



microSDメモリカード(市販品)を使う

microSDメモリカードを本機に挿入すると、以下の機能を使うことができます

- ・本機の設定データ、メモリーチャンネルのバックアップ(保存/読込)
- ・GM機能、WIRES-X機能でダウンロードしたメッセージや画像の記録/再生
- ・GPSログデータの記録
- ・音声録音/再生

● 使用できるmicroSDメモリカード

次の容量のmicroSDメモリカードまたはmicroSDHCメモリカードに対応しています

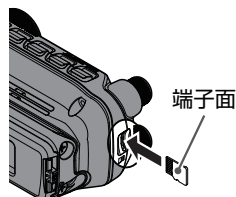
- ・2GB ・4GB ・8GB ・16GB ・32GB



- 市販されているすべてのmicroSDメモリカードとmicroSDHCメモリカードの動作を保証するものではありません。また、microSDXCメモリカードには対応していません
- microSDメモリカードにデータを保存しているときや読み込んでいるときは、microSDメモリカードを抜いたり、本機の電源を切らないでください

microSDメモリカードを挿入する

1. 無線機の電源をオフにします
2. コントロールヘッド左側面のスロットに、microSDメモリカードの端子面をコントロールヘッドの背面側にして「カチッ」というまで挿し込みます
3. 無線機の電源をオンにすると、ディスプレイの上部に“SD”アイコンが点灯します



● microSDメモリカードを外す

無線機の電源をオフにしてからmicroSDメモリカードを軽く押し込んで抜き取ります

microSDメモリカードを初期化する

microSDメモリカードを初めて本機で使用するときは、次の手順で初期化してください

1. FUNCツマミを長押しします
2. 【108 フォーマット】にタッチします
またはFUNCツマミをまわして【108 フォーマット】を選択 → FUNCツマミを押す
“FORMAT?”と確認画面が表示されます
3. FUNCツマミをまわして【OK】を選択してFUNCツマミを押します
4. 初期化が終了すると、画面に“Completed”と表示されます



- 他の機器で使用したmicroSDメモリカードは「本機で認識しない」、「読み書きに異常に時間がかかる」など正常に使用できない場合があります。SDアソシエーションが提供する最新のSDメモリカードフォーマッターを使用すると改善する場合があります。SDメモリカードフォーマッターはこちらのURL(<https://www.sdcard.org/ja/downloads-2/>) からダウンロードできます
- 初期化するとmicroSDメモリカードに記録されているすべてのデータが消去されます。使用中のmicroSDメモリカードを初期化する場合は、メモリカードの内容をよくご確認ください

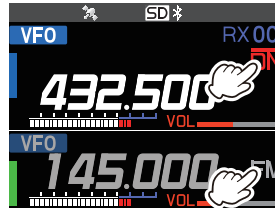
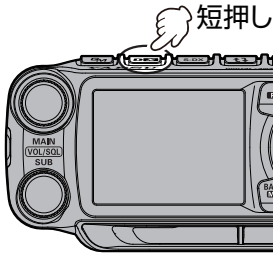
通信モードを選択する

● AMS機能を使用する

信号を受信すると相手局の通信モードを認識して、自局の通信モードを自動であわせる機能です
AMS機能を利用する場合は **[AMS]** キーを押すかディスプレイのモード表示部分にタッチして、ディスプレイに **"DN"** か **"VW"** *を表示させます

信号を受信すると、自動的に相手局と同じ通信モードに切り換わります

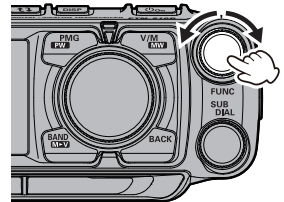
*表示される通信モードは、受信した信号により変わります



● AMS送信モード設定

AMS機能によって相手局のモードに自動で自局の受信と送信の通信モードを合わせて相手局と通信することができますが、受信したモードに関係なく、送信モードだけを固定することもできます
自局が送信する場合には常に同じモードを使いたいけれども、様々なモードの信号を受信したい場合に設定すると便利です

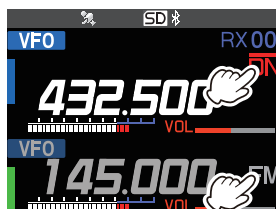
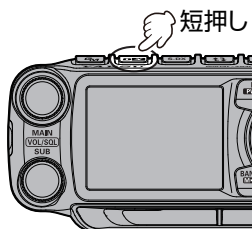
1. FUNCツマミを長押しします
2. **[9 AMS送信モード]** にタッチします
またはFUNCツマミをまわして **[9 AMS送信モード]** を選択
→ FUNCツマミを押す
3. FUNCツマミをまわして、送信モード選択します
4. **[S-DX]**、**[On]**、**[BACK]** 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります
"TX FM FIXED" または "TX DN FIXED" に設定して、AMS送信モードを固定している場合は、通信モードアイコン上部の線が点滅します



送信モード設定	送信	受信
AUTO (工場出荷時設定)	受信信号に合わせて、自動的に選択された通信モードで送信します	受信信号に合わせて、通信モードを自動的に選択します
TX FM FIXED	アナログFMモードで送信します	
TX DN FIXED (TX DIGITAL)	通常のデジタルモード (DN) で送信します	

通信モードを手動で設定する

1. 送受信の通信モードを固定して運用する場合は **[D3]** キーを押すかディスプレイのモード表示部分にタッチして、通信モードを選択します
AMS機能がオフの時は、通信モードアイコン上部の線が表示されません



通信モード	アイコン	モードの説明
V/Dモード (音声/データ同時通信モード)	ON	通常のデジタルモードです。デジタル音声信号とデータを同時に伝送する通話が途切れにくいモードです
Voice FRモード※1 (音声フルレートモード)	VW ※1	12.5kHzの帯域をすべて使用してデジタル音声信号を伝送する高音質なモードです
FMモード	FM	FMモードを使用したアナログ通信モードです
AMモード (受信専用)※2	AM ※2	受信専用のAMモードです

※1 Voice FRモード (VW) は、FUNCツマミ長押し → **[14 DIGITAL VW設定]** を“ON”(工場出荷時設定は“OFF”)に設定すると選択できます

※2 AIRバンド帯 (108MHz ~ 137MHz, 222MHz ~ 250.4MHz, 300MHz ~ 336MHz) 以外のバンドで、AMモードに設定するには、FUNCツマミ長押し → **[16 受信モード設定]** を“AM”に設定します

送信出力を変更する

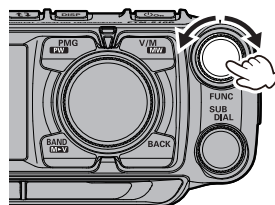
工場出荷時設定では、付属のマイクロホンSSM-85Dの**[P4]**キーを押すたびに、送信出力が → “HIGH” → “LOW” → “MID” → … と変わります

POメーター表示	HIGH	MID	LOW
FTM-510D	約 50W	約 25W	約 5W
FTM-510DS	約 20W	約 10W	約 1W

※：工場出荷時は“HIGH”に設定されています

● ファンクションリストで送信出力を設定する

1. FUNCツマミを押します
2. **[TXPWR]** にタッチします
またはFUNCツマミをまわして **[TXPWR]** を選択 → FUNCツマミを押す
またはFUNCツマミ長押し → “8 送信出力”
3. FUNCツマミをまわして送信出力を選択します
“LOW” ↔ “MID” ↔ “HIGH”
4. **[S-DX]**、**[On]**、FUNCツマミ、MAIN VOL/SQLツマミ以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります

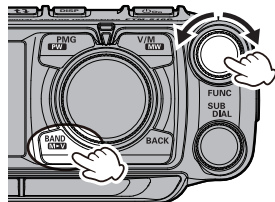


送信出力はメインバンド/サブバンドの各周波数帯 (バンド)、メモリーチャンネルごとに個別に設定できます

選択できるバンド（周波数帯）を設定する

 キーを押した時に、使用したいバンドだけを選択できるようにできます。よく使う周波数などはバンドスキップの設定をする前にメモリーチャンネルに保存しておけば、選択できないバンドの周波数を保存したメモリーでも呼び出すことができます

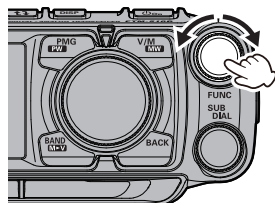
1. VFOモードで  キーを長押しします
またはFUNCツマミを長押し→ **[24 BAND スキップ]**
2. FUNCツマミをまわして設定したいバンドを選択してFUNCツマミを押します
3. FUNCツマミをまわして、“ON”（選択可能）または“OFF”（選択不可能）を設定します
4. , ,  以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります



周波数ステップを変更する

DIALツマミをまわしたときの周波数ステップ（周波数変化量）を変更できます。通常は工場出荷時設定の“**AUTO**”のままで使用します

1. FUNCツマミを長押しします
2. **[33 周波数ステップ]** にタッチします
またはFUNCツマミをまわして **[33 周波数ステップ]** を選択 → FUNCツマミを押す
3. FUNCツマミをまわして周波数ステップを選択します
4. , ,  以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります

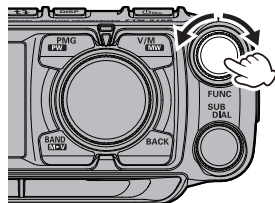


- 工場出荷時は、周波数帯にあわせて最適な周波数ステップに自動で切り替わる“**AUTO**”に設定されています
- 設定できる周波数ステップは周波数帯（バンド）によって異なります

操作バンドの周波数表示色を変える

操作バンドの周波数の色を、“白”、“青”、“赤”から選択することができます

1. FUNCツマミを長押しします
2. **[3 周波数表示色]** にタッチします
またはFUNCツマミをまわして **[3 周波数表示色]** を選択 → FUNCツマミを押す
3. FUNCツマミをまわして表示色を選択します
WHITE(白) ↔ BLUE(青) ↔ RED(赤)
4. , ,  以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります



便利なC4FMデジタル機能を使う

デジタルグループID(DG-ID)機能とは

デジタルグループID(DG-ID)は、二桁のID番号を使って簡単な操作で仲間だけと交信を楽しむことができる機能です。あらかじめ仲間同士で00から99までの二桁の番号から好きな番号を選びます。このID番号は送信と受信で別々に設定するようになっていますが、送信、受信とも同じID番号に設定しておけば、同じID番号の仲間の音声だけを聞くことができます

DG-ID番号00はすべてのID番号がついた信号を認識しますので、通常は、送信、受信ともID番号を00に設定しておけば、相手の送信DG-ID番号に関係なく、デジタルC4FMモードの全ての相手局の信号を聞くことができます

受信のDG-ID番号を00以外の数字に設定してありますと同じDG-ID番号以外の受信音声を受けることができませんのでご注意ください

DG-ID機能を使って交信する



- この機能を利用するためにはDG-ID機能を持ったC4FMデジタルトランシーバーが必要です
- DG-ID機能に対応していないC4FMデジタルトランシーバーは、最新のファームウェアにアップデートすることでDG-ID機能をお使いいただけます。最新のファームウェアは当社のウェブサイトからダウンロードできます

DG-ID番号を“00”にしてC4FMデジタルモードを使用している全ての相手の信号を受信する

1. キーを長押しします

DG-ID番号の設定画面が表示されます



DG-ID番号の設定画面で**FUNC**ツマミを長押しすると、送信と受信のDG-ID番号を“00”に戻すことができます

2. 送信(DG-ID TX)のDG-ID番号が“00”ではない時は、**FUNC**ツマミを押してから**FUNC**ツマミをまわして“00”に設定して**FUNC**ツマミを押します

3. **FUNC**ツマミをまわして、受信のDG-ID(DG-ID RX)を選択します

4. 受信のDG-ID番号が“00”ではない時は、**FUNC**ツマミを押してから**FUNC**ツマミをまわして“00”に設定して**FUNC**ツマミを押します

5. 、、 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります

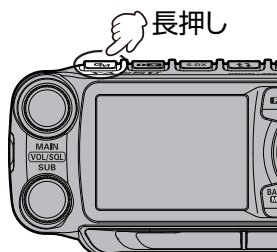
6. キーを押すと、GM(グループモニター)機能がオンになり、他の局が交信可能範囲にいるかを自動でチェックします

- GM機能は相手局もGM機能をオンにしている必要があります
- GM機能についての詳しい説明は、取扱説明書(GM編)を参照してください(当社ウェブサイトからダウンロードすることができます)

7. GM機能を終了するには、もう一度 キーを押します



- 受信のDG-ID番号を“00”以外に設定すると、同じDG-ID番号の信号以外は受信できませんのでご注意ください。ツーリングなどで仲間とだけ交信をするような特別な場合を除いて、受信のDG-ID番号は“00”にしておくことをお勧めします
- 工場出荷時は送信と受信のDG-ID番号は“00”に設定されています



DG-ID 選択	
DG-ID TX	00
DG-ID RX	00

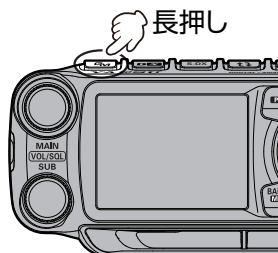
DG-ID番号を“00”以外にして特定の仲間とだけ交信する

仲間同士のDG-ID番号を“50”に設定する

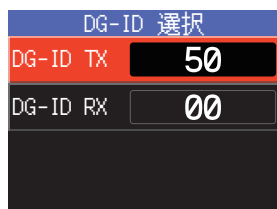
1. **GM** キーを長押しします

DG-ID番号の設定画面が表示されます

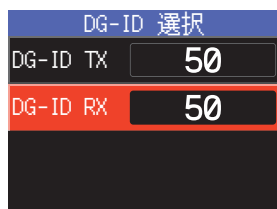
- i** DG-ID番号の設定画面で**FUNC**ツマミを長押しすると、送信と受信のDG-ID番号を“00”に戻すことができます



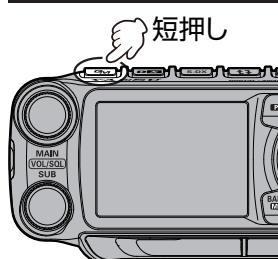
2. **FUNC**ツマミを押してから**FUNC**ツマミをまわして、送信(DG-ID TX)のDG-ID番号を“50”に設定して **BACK** キーを押します
3. **FUNC**ツマミをまわして、受信のDG-ID(DG-ID RX)を選択します



4. **FUNC**ツマミを押してから**FUNC**ツマミをまわして受信のDG-ID番号を“50”に設定します
5. **S-DX**、**Power**、**BACK** 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります
DG-ID番号が同じ仲間同士で、周波数をあわせて交信が可能になります



6. **GM** キーを押すとGM(グループモニター)機能が動作します
 - GM機能をオンにして同じDG-ID番号に設定している仲間が交信可能範囲にいるかどうかを自動でチェックします
 - GM機能を使用するには、相手局も同じ周波数でGM機能をオンにしている必要があります



7. GM機能を終了するには、もう一度 **GM** キーを押します

デジタルGM(グループモニター)機能は、同じ周波数でGM機能を動作させている局が通信範囲内にいるかどうかを自動的に確認し、コールサインごとに距離と方向を表示します。最大 24 局までのメンバーとの位置関係を確認できます

 デジタルGM機能について詳しくは取扱説明書 (GM編) を参照してください (当社ウェブサイトからダウンロードすることができます)

レピータ運用

レピータを使って交信する

本機には、周波数をレピータの周波数にあわせるだけで、すぐにレピータを使って交信ができるARS(Automatic Repeater Shift)機能が搭載されています

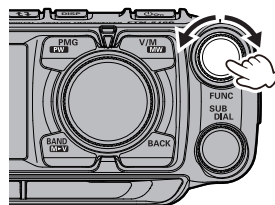
1. 受信周波数をレピータのダウンリンク周波数にあわせませす
2. “”と“TN”、トーン周波数が表示されて、自動でレピータシフト(−5MHz)とトーンエンコーダー(88.5Hz)が有効となり、レピータを使った交信ができます



● 送信と受信の周波数を入れ替えるリバース機能

レピータシフトが設定されているときに、一時的に送信と受信の周波数を入れ替えて、相手局のアップリンクの電波を直接受信できるかどうかを確認することや、PTTを押してダウンリンク周波数で送信して相手局と交信ができます

1. FUNCツマミを押します
2. [RPT-R] にタッチします
またはFUNCツマミをまわして [RPT-R] を選択 → FUNCツマミを押す
またはFUNCツマミ長押し → “28 RPT リバース”
3. 送信と受信の周波数が入れ替わります (リバース機能)
リバース中は “”アイコンが点滅します



● リバースを解除する

リバースを解除するには、上記の操作を繰り返します

- リバース中にファンクションリストまたはセットアップメニューを呼び出すと自動的にRPTリバースの項目が選択されます。他の項目を選択することはできません
- レピータに関する設定を以下の操作で変更できます



ARS機能のオン/オフ : FUNCツマミ短押し → [ARS]
(またはセットアップメニューの “25 RPT ARS”)

レピータのシフト方向 : FUNCツマミ長押し → [26 RPT シフト]

レピータのシフト幅 : FUNCツマミ長押し → [27 RPT シフト周波数]

トーン周波数 : FUNCツマミ長押し → [46 トーン周波数]

運用周波数や通信モード、その他の運用情報などが保存できる大容量のメモリーチャンネルを搭載しています

- メモリーチャンネル 999ch
- ホームチャンネル 4ch
- PMSメモリーチャンネル 50 組

- ◎ メモリーオートグルーピング (MAG)機能により、自動的に同じ周波数帯のメモリーチャンネルだけをグループとして呼び出すことができます (49 ページ参照)
- ◎ PMG (プライマリーメモリーグループ)機能により、よく使う周波数を PMG に登録しておけば、 キーを押すだけで周波数の状態をバーグラフで表示します (14 ページ参照)

メモリーチャンネルには下記の情報が保存されます

- 運用周波数
- 通信モード
- 周波数ステップ
- 送信出力
- メモリータグ
- レビータシフト
- 送受信の DG-ID番号
- トーン
- DCS
- 私鉄空線信号周波数
- スキップメモリー

メモリーした内容は、microSDメモリーカードにバックアップしてください。microSDカードへのバックアップについては、取扱説明書 (詳細編) を参照してください (当社ウェブサイトからダウンロードすることができます)

メモリーに書き込む

1. メモリーに書き込む周波数に設定します

2.  キーを長押しします

メモリーチャンネルリストが表示されて、空いている最も小さい番号のメモリーチャンネルが選択されます

 メモリーチャンネルリストは以下の操作でも表示できます

FUNC ツマミ 短押し → **【キーパッド】** にタッチ → **【MEM LIST】** にタッチ

- **FUNC** ツマミをまわして書き込むメモリーチャンネル番号を変更することができます
- マイクロホンの **[UP]/[DOWN]** キーまたは **SUB DIAL** ツマミをまわすと 10 チャンネルステップで選択できます
- マイクロホンの数字キーを押すと、下記のようにメモリーチャンネルを素早く選択できます

(例) **[1]** キーを押す → メモリーチャンネル 100

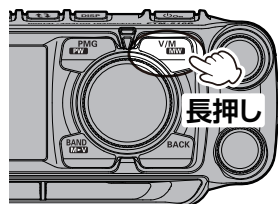
[A] キーを押す → PMSメモリーチャンネル L01

- メモリーチャンネルリストの **[HOM]** を選択すると、HOMEチャンネルに上書き保存することができます

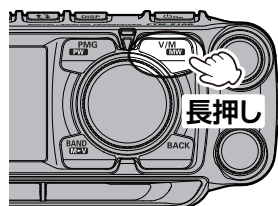
 すでに書き込みされているメモリーチャンネルは、メモリーチャンネルリストで周波数が表示されます

3.  キーを長押しします

- すでに書き込み済みのメモリーチャンネルの場合は、確認画面が表示されますので、**FUNC** ツマミで **[OK]** を選択して **FUNC** ツマミを押すと上書き保存します
- メモリーが保存されて、VFOモードに戻ります



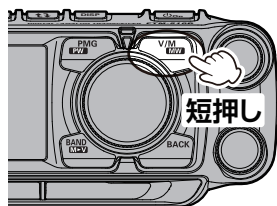
MEMORY CH LIST	
001	145.000
002	!!!.!!!! _ _ _ _
003	!!!.!!!! _ _ _ _
004	!!!.!!!! _ _ _ _



メモリーを呼び出す (3 通りの方法があります)

① キーを押すか **VFO** にタッチして呼び出す

1.  キーを押すか **VFO** にタッチします
最後に使用したメモリーチャンネルが呼び出されます
2. **DIAL**ツマミをまわして、使いたいメモリーチャンネルを選択します
 - **DIAL**ツマミを押してからまわすと、10 チャンネルステップで選択できます
 - もう一度  キーを押すか、**M-ALL** / **M-AIR** / **M-VHF** / **M-UHF** / **OTHER** / **M-GRP** のいずれかにタッチすると VFOモードに戻ります



② メモリーチャンネルリストから呼び出す

1. **FUNC**ツマミを押します
または**FUNC**ツマミ長押し → “1 キーパッド” → 手順3へ
2. **【キーパッド】** にタッチします
3. **【MEM LIST】** にタッチするか、**DIAL**ツマミをまわして **【MEM LIST】** を選択して、**DIAL**ツマミを押します
メモリーチャンネルリストが表示されます



メモリーチャンネルリストは以下の操作でも表示できます
FUNCツマミ長押し → **【20 メモリー リスト】**選択

4. **FUNC**ツマミをまわして、使いたいメモリーチャンネルを選択します
 - マイクロホンの**【UP】**/**【DWN】**キーまたは**SUB DIAL**ツマミをまわすと 10 チャンネルステップで選択できます
 - マイクロホンの数字キーを押すと、下記のようにメモリーチャンネルを素早く選択できます
(例) **【1】**キーを押す → メモリーチャンネル 100
【A】キーを押す → PMSメモリーチャンネル L01
5. **FUNC**ツマミを押すと **【MR】** が選択されたポップアップが表示されますので**FUNC**ツマミを押すか **【MR】** にタッチします
選択したメモリーチャンネルが呼び出されます

キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スケッチ OFF	ARS AUTO
RPT-R	TOUR 88.5
DTMF	APRS OFF
>	

FREQUENCY  .----					
1	2	3	4	5	
6	7	8	9	0	
MEM CH	MEM LIST	X			

ME	MR	ST
001 14	WRITE	
002 43	EDIT	
003 11	M-GRP ON	---
004 11	DELETE	---

③ メモリーチャンネル番号を直接入力して呼び出す

● キーパッド画面を使って呼び出す

1. メモリーモードでFUNCツマミを押します
またはFUNCツマミ長押し→“1 キーパッド”→手順3へ
2. 【キーパッド】にタッチします
3. 【MEM CH】にタッチするか、DIALツマミをまわして【MEM CH】を選択して、DIALツマミを押します
4. 数字にタッチするか、DIALツマミをまわしてメモリーチャンネル番号の数字を選択して、DIALツマミを押します

(例)メモリーチャンネル 123 を呼び出す場合

タッチするかマイクロホンの数字キーで呼び出す場合

【1】→【2】→【3】

DIALツマミで呼び出す場合

【1】を選択 → DIALツマミを押す → 【2】を選択 → DIALツマミを押す → 【3】を選択 → DIALツマミを押す

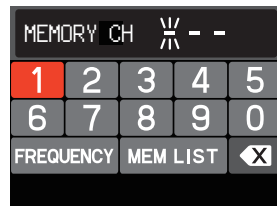
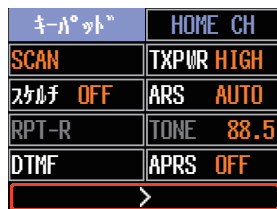
(例)メモリーチャンネル 16 を呼び出す場合

タッチするかマイクロホンの数字キーで呼び出す場合

【1】→【6】→【いずれかの数字キーを長押し】

DIALツマミで呼び出す場合

【1】を選択 → DIALツマミを押す → 【6】を選択 → DIALツマミを押す → DIALツマミを長押し



PTT を押すと、入力をキャンセルして前の画面に戻ります

● マイクロホンの数字キーを使って呼び出す

メモリーモード時に“0”～“9”の数字キーを押して、メモリーチャンネル番号を入力します

(例)123 を呼び出す場合

【1】→【2】→【3】

(例)16 を呼び出す場合

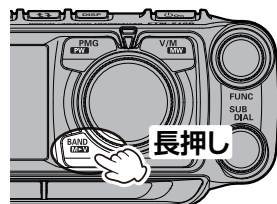
【1】→【6】→【いずれかの数字キー】を長押し



メモリーチャンネル番号を入力中にPTTを押すと、入力をキャンセルできます

● メモリーチャンネルの情報をVFOにコピーする

1. メモリーの呼び出し中に キーを長押しします
呼び出し中のメモリーチャンネルの内容をVFOに転送してVFOモードになります



メモリーチャンネルリストを自動で表示させるメモリーリストモード

メモリーモード時にDIALツマミをまわしたときに、メモリーチャンネルリストを自動で表示するように設定することができます。メモリーチャンネルリスト画面でメモリーの周波数とメモリータグを確認して、希望するメモリーチャンネルへ簡単に移動することができます

設定

1. FUNCツマミ長押し
2. [21 メモリー リスト モード] にタッチ
またはFUNCツマミをまわして [21 メモリー リスト モード] を選択 → FUNCツマミを押す
3. FUNCツマミをまわして "ON" に設定します
4. 、、 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります
通常動作に戻す場合は、上記の設定の手順3で "OFF" にします

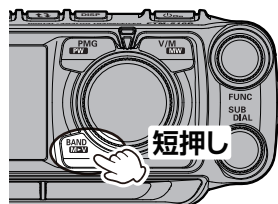
操作

1. メモリーモード時にDIALツマミをまわすと、自動的にメモリーチャンネルリストが表示されます
 キーを押すと、メモリーオートグルーピング (MAG)機能により周波数帯 (バンド) ごとのリスト表示に切り替わります (下記参照)
2. DIALツマミをまわしてメモリーチャンネルを選択してDIALツマミを押すと呼び出すことができます

メモリーオートグルーピング (MAG)機能で 同じ周波数帯 (バンド) のメモリーだけを呼び出す

同じ周波数帯 (バンド) ごとにメモリーチャンネルを自動でグルーピングして呼び出すことができます

メモリーを呼び出している時に  キーを押すたびに、下記のように呼び出すバンドが切り替わり、バンドごとにグルーピングされたメモリーチャンネルを呼び出すことができます



- **M-ALL** を選択しているときはMAG機能がオフになり、全てのメモリーチャンネルを呼び出すことができます
- **M-GRP** は周波数 (バンド) に関係なく、よく使うメモリーチャンネルをグループにすることができます
- M-GRP (メモリーグループ) に何も登録されていない場合は **M-GRP** と “----.----” が表示されます



グループ名	呼び出せるメモリーチャンネル
M-ALL	バンド (周波数帯) に関係なく、全てのメモリーチャンネルを呼び出します
M-AIR	AIRバンド帯 (108MHz ~ 137MHz) のメモリーチャンネルだけを呼び出します
M-VHF	VHF帯 (137MHz ~ 174MHz) のメモリーチャンネルだけを呼び出します
M-UHF	UHF帯 (400MHz ~ 550MHz) のメモリーチャンネルだけを呼び出します
OTHER	174MHz ~ 400MHz のメモリーチャンネルだけを呼び出します
M-GRP	バンド (周波数帯) に関係なく、よく使うメモリーチャンネルをあらかじめM-GRP (メモリーグループ) に登録して呼び出します



M-GRP (メモリーグループ) への登録の方法は次ページを参照してください

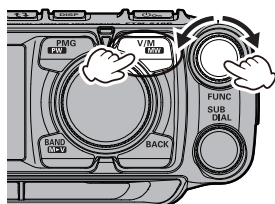
M-GRP(メモリーグループ) によく使うメモリーチャンネルを登録する

1. VFOモードまたはメモリーモード時に  キーを長押しします
メモリーチャンネルリストが表示されます



メモリーチャンネルリストは以下の操作でも表示できます

FUNCツマミ短押し → **【キーパッド】** にタッチ → **【MEM LIST】** にタッチ



2. **FUNC**ツマミをまわして、グループに登録したいメモリーチャンネルを選択して**FUNC**ツマミを押します
またはメモリーチャンネルにタッチしても選択できます

MEMORY CH LIST		
021	433.300	八重洲無
022	433.620	YAESU
023	433.300	デジタル
024	439.700 434.700	品川区

3. ポップアップ画面が表示されますので **【M-GRP ON】** にタッチするとM-GRP(メモリーグループ)に登録されます
または**FUNC**ツマミをまわして **【M-GRP ON】** を選択して**FUNC**ツマミを押しても登録できます

ME	MR	ST
021	43 WRITE	重洲無
022	43 EDIT	ESU
023	43 M-GRP ON	ジタル
024	43 DELETE	川区



M-GRPに登録されたメモリーチャンネルは、番号が白から青に変わります



MEMORY CH LIST		
021	433.300	八重洲無
022	433.620	YAESU

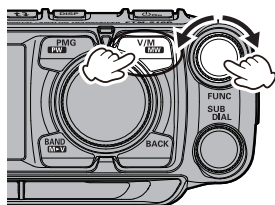
● M-GRP(メモリーグループ) への登録を取り消す

1.  キーを長押しします
メモリーチャンネルリストが表示されます



メモリーチャンネルリストは以下の操作でも表示できます

FUNCツマミ短押し → **【キーパッド】** にタッチ → **【MEM LIST】** にタッチ



2. **FUNC**ツマミをまわして、登録を取り消したいメモリーチャンネルを選択して**FUNC**ツマミを押します
3. ポップアップ画面が表示されますので **【M-GRP ON】** にタッチするとグループ登録が取り消されます
または**FUNC**ツマミをまわして **【M-GRP ON】** を選択して**FUNC**ツマミを押しても登録を取り消すことができます

ME	MR	ST
021	43 WRITE	重洲無
022	43 EDIT	ESU
023	43 M-GRP ON	ジタル
024	43 DELETE	川区

メモリーを編集する

●メモリータグを編集する

メモリーチャンネル、ホームチャンネルには、コールサインや名前など、最大 16 文字 (半角) / 最大 8 文字 (全角) のメモリータグ (名前) をつけることができます

メモリータグには次の文字を入力できます

- ・ 英字 (大文字全角/半角、小文字全角/半角) ・ 数字 (全角/半角) ・ 記号 ・ 漢字
- ・ ひらがな、カタカナ (全角半角)

1. キーを長押しします

メモリーチャンネルリストが表示されて、空いている最も小さい番号のメモリーチャンネルが選択されます



メモリーチャンネルリストは以下の操作でも表示できます

FUNC ツマミ短押し → **【キーパッド】** にタッチ → **[MEM LIST]** にタッチ

2. **FUNC** ツマミをまわして、メモリータグを編集するメモリーチャンネルを選択して **FUNC** ツマミを押します

3. ポップアップが表示されますので **[EDIT]** にタッチします または **FUNC** ツマミで **[EDIT]** を選択 → **FUNC** ツマミを押す MEMORY INFORMATION 画面が表示されます

MEMORY CH LIST		
021	433.300	八重洲無
022	433.620	YAESU
023	433.300	デジタル
024	439.700 434.700	品川区

ME	MR	ST
021	43	重洲無
022	43	ESU
023	43	ジタル
024	43	川区
WRITE		
EDIT		
M-GRP ON		
DELETE		

4. **[TAG]** にタッチします

または **FUNC** ツマミをまわして **[TAG]** を選択 → **FUNC** ツマミを押す

- ・ **FUNC** ツマミをまわして文字を選択して、**FUNC** ツマミを押して入力します



カーソルが左に移動



カーソルが右に移動



大文字/小文字切り替え



全角アルファベットの入力画面



漢字とひらがな、カタカナの入力画面



数字と記号の入力画面



記号の入力画面



カーソル左側の文字を削除してカーソルが左に移動

MEMORY INFORMATION	
RX FREQ	433.340
TX FREQ	111.1111
TAG	八重洲無線 品川
SCAN	YES
OK	BACK

a	b	c	d	e	f	h	h	i	j
k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
u	v	w	x	y	z	Caps	A	あ	漢
123	#%	^	←	Space	→	↩	↪		

- ・ 文字入力の方法については“文字入力画面の操作”(81 ページ)を参照してください

5. 全ての文字を入力後、**FUNC** ツマミを長押しすると入力したメモリータグが確定されて MEMORY INFORMATION 画面に戻ります

6. **[OK]** にタッチします

または **FUNC** ツマミをまわして **[OK]** を選択 → **FUNC** ツマミを押す

7. 確認のポップアップが表示されますので、**[OK]** にタッチするか **FUNC** ツマミをまわして **[OK]** を選択して **FUNC** ツマミを押すと、メモリータグの入力は完了です



メモリータグは、操作バンド (画面上側) でメモリーを呼び出したときだけ表示されます

● メモリーを消去する

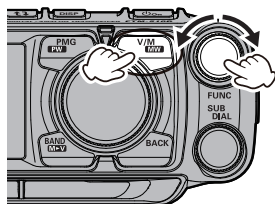
1.  キーを長押しします
メモリーチャンネルリストが表示されて、空いている最も小さい番号のメモリーチャンネルが選択されます



メモリーチャンネルリストは以下の操作でも表示できます

FUNCツマミ短押し → **【キーパッド】**にタッチ → **【MEM LIST】**にタッチ

2. **FUNC**ツマミをまわして、消去するメモリーチャンネルを選択して**FUNC**ツマミを押します
3. ポップアップが表示されますので、**【DELETE】**にタッチします
または**FUNC**ツマミをまわして**【DELETE】**を選択して**FUNC**ツマミを押します
“DELETE?”と確認画面が表示されます
4. **FUNC**ツマミをまわして、**【OK】**にタッチするか**FUNC**ツマミをまわして**【OK】**を選択して**FUNC**ツマミを押すと消去されます



メモリーチャンネル 001 とホームチャンネルは消去できません

ホームチャンネルを呼び出す

● ファンクションリストで呼び出す

1. FUNCツマミを押します
2. **[HOME CH]** にタッチします
またはFUNCツマミで **[HOME CH]** を選択 → FUNCツマミを押す
 - またはFUNCツマミ長押し → “19 HOME CH”
 - ディスプレイの左上部分に “HOME” と表示され、現在の周波数帯のホームチャンネルが呼び出されます

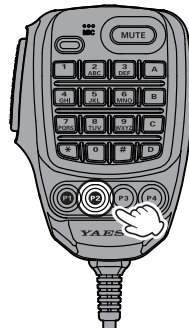
キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スクリーン OFF	ARS AUTO
RPT-R	TOPE 88.5
DTMF	APRS OFF
➤	

● マイクロホンのプログラマブルキーで呼び出す

1. マイクロホンの **[P2]** キーを押します
※工場出荷時の設定です。[P1]、[P3]、[P4]キーに割り当てることもできます（29 ページ参照）
2. もう一度[P2]キーを押すと元の周波数に戻ります



ホームチャンネル呼び出し中に**DIAL**ツマミをまわすと、ホームチャンネルの周波数や設定がVFOに転送されVFOモードになります



ホームチャンネルの内容を変更する

1. ホームチャンネルに書き込む周波数に設定します
2.  キーを長押しします
メモリーチャンネルリストが表示されて、空いている最も小さい番号のメモリーチャンネルが選択されます
3. FUNCツマミを左にまわして **[HOM]** を選択してFUNCツマミを押します
4. **[WRITE]** にタッチするかFUNCツマミをまわして **[WRITE]** を選択してFUNCツマミを押します
5. 確認画面が表示されますので、FUNCツマミで **[OK]** を選択してFUNCツマミを押します

MEMORY CH LIST	
[HOM]	145.000
001	145.180
002	111.1111 1111
003	111.1111 1111

スプリットメモリー

1 つのメモリーチャンネルに、受信周波数と送信周波数を個別に保存できます

1. あらかじめVFOモードで周波数や通信モード、送信出力などを設定して“**受信周波数**”をメモリーに保存します(“メモリーに書き込む”(45 ページ)を参照してください)
すでに書き込み済みの場合は手順 2 に進んでください
2.  キーを長押しします
メモリーチャンネルリストが表示されて、空いている最も小さい番号のメモリーチャンネルが選択されます



メモリーチャンネルリストは以下の操作でも表示できます

FUNCツマミ短押し → **【キーパッド】**にタッチ → **【MEM LIST】**にタッチ

3. **FUNC**ツマミをまわして、手順 1 で“**受信周波数**”を書き込んだメモリーチャンネル番号を選択して、**FUNC**ツマミを押します
4. **【EDIT】**にタッチします
または**FUNC**ツマミで **【EDIT】** を選択 → **FUNC**ツマミを押す



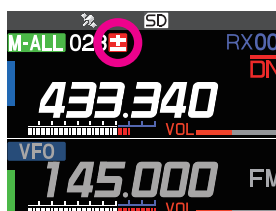
5. **【TX FREQ】**にタッチします
または**FUNC**ツマミで **【TX FREQ】** を選択 → **FUNC**ツマミを押す
送信周波数の入力画面が表示されます
6. タッチするか、**DIAL**ツマミをまわして数字を選択して**DIAL**ツマミを押して送信周波数を入力します
7. 周波数の入力が終わったら **【OK】**にタッチします
または**FUNC**ツマミで **【OK】** を選択 → **FUNC**ツマミを押す



8. 確認画面が表示されますので、**【OK】**にタッチします
または**FUNC**ツマミを押します
 - メモリーチャンネルリスト画面では、上側に受信周波数、下側に送信周波数が表示されます



- 通常画面でスプリットメモリーを呼び出している時は、ディスプレイに“”アイコンが表示されます



- スプリットメモリー呼び出し中に、**FUNC**ツマミ短押し → **【RPT-R】**にタッチすると、一時的に送信と受信周波数を入れ替えることができます(リバース状態)。もう一度同じ操作を行うとリバース状態は解除されます
- リバース中は“”アイコンが点滅します
- リバース中にファンクションリストまたはセットアップメニューを呼び出すと自動的にRPTリバースの項目が選択されます。他の項目を選択することはできません



本機には、信号がある周波数を探す 3 種類のスキャン機能があります

- **VFOスキャン**：現在の周波数帯（バンド）の周波数をスキャンします
- **メモリスキャン**：メモリーされているチャンネルをスキャンします
- **プログラマブルメモリスキャン（PMS）**：設定した周波数間だけをスキャンします

VFOスキャン/メモリスキャン

VFOモードまたはメモリーモードで信号がある周波数を探します

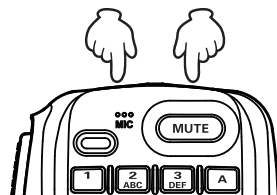
1. スキャンはMAIN/バンド（画面上側）で行います
2.  キーを押してVFOモードまたはメモリーモードにします

● スキャンを開始する

次のいずれかの方法でスキャンを開始します

- **FUNCツマミ**を押す → “SCAN” にタッチする
または **FUNCツマミ**を押す → **FUNCツマミ**をまわして “SCAN” を選ぶ → **FUNCツマミ**を押す
- **FUNCツマミ**を長押し → “51 SCAN” にタッチする
または **FUNCツマミ**を長押し → **FUNCツマミ**をまわして “51 SCAN” を選ぶ → **FUNCツマミ**を押す
- マイクロホンの **[UP]/[DWN]**キーを長押し
- スキャン中に **DIALツマミ**をまわすと、スキャンの方向が変わります
- 信号を受信するとスキャンが一時停止して周波数が点滅し、約 3 秒後に再びスキャンを開始します（工場出荷時の設定）

キーパッド	HOME CH
SCAN	TXPWR HIGH
スケッチ OFF	ARS AUTO
RPT-R	TOPE 88.5
DTMF	APRS OFF
START	



● スキャンを中止する

次のいずれかの方法でスキャンを中止します

- **FUNCツマミ**を押す → “SCAN” にタッチするか **FUNCツマミ**を押す
- **FUNCツマミ**を長押し → “51 SCAN” にタッチするか **FUNCツマミ**を押す
- マイクロホンの **PTT** を押す（スキャンが停止するだけで送信はしません）
- マイクロホンの **[UP]/[DWN]**キーを押す



- スキャンが一時停止しているときに **DIALツマミ**をまわすと、すぐにスキャンを再開します
- スキャン中に本機の電源をオフにして、電源をオンにするとスキャンを再開します
- スキャン中にファンクションリストまたはセットアップメニューを呼び出すと自動的に SCAN の項目が選択されます。他の項目を選択することはできません

スキャン停止時の動作を設定する

1. **FUNCツマミ**を長押し → **[55 SCAN RESUME]** にタッチします
または **FUNCツマミ**を長押し → **FUNCツマミ**をまわして **[55 SCAN RESUME]** を選択 → **FUNCツマミ**を押す
2. **FUNCツマミ**をまわして信号を受信したときの動作を選択します（工場出荷時設定：3 秒）

• BUSY

信号が無くなるまで受信し、信号が無くなると約 2 秒後にスキャンを再開します

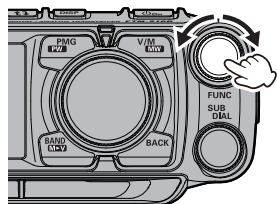
• HOLD

スキャンを中止し、その周波数を受信し続けます（スキャンは再開しません）

• 1 秒 / 3 秒 / 5 秒

設定した時間だけ受信し、その後は信号があってもスキャンを再開します

3. **[S-DX]**、**[On]**、**[BACK]** 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります





この設定は、VFOスキャン、メモリスキャン、プログラマブルメモリスキャン (PMS) で共通です

スキップメモリーを設定する

メモリーチャンネルごとに、メモリスキャン時にスキャンしないでスキップする“スキップメモリー”の設定ができます

1.  キーを長押しします
メモリーチャンネルリストが表示されます



メモリーチャンネルリストは以下の操作でも表示できます

FUNCツマミ短押し → **【キーパッド】** にタッチ → **【MEM LIST】** にタッチ

2. **FUNC**ツマミをまわしてスキャンしたくないメモリーチャンネル番号を選択して、**FUNC**ツマミを押します
3. **【EDIT】** にタッチします
または **FUNC**ツマミをまわして **【EDIT】** を選択 → **FUNC**ツマミを押す
4. **【SCAN】** にタッチして **【NO】** を選択します
または **FUNC**ツマミをまわして **【SCAN】** を選択 → **FUNC**ツマミを押して **【NO】** を選択
5. **【OK】** にタッチします
または **FUNC**ツマミをまわして **【OK】** を選択 → **FUNC**ツマミを押す
6. 確認画面が表示されるので、**【OK】** にタッチするか **FUNC**ツマミを押します
スキップメモリーに設定したメモリーチャンネルを呼び出すと、チャンネル番号の右側に “**X**” アイコンが表示されます



スキップメモリーを解除するには、再度上記の操作を行い、手順 5 で “YES” を選択します

プログラマブルメモリスキャン (PMS)

スキャンしたい周波数範囲の下限周波数と上限周波数を PMS メモリーチャンネルにメモリーして、その範囲の周波数だけをスキャンすることができます

PMS メモリーチャンネルには、上下限周波数を 50 組 (L01/U01 ~ L50/U50) メモリーできます



※プログラマブルメモリスキャン (PMS) についての説明は、取扱説明書 (詳細編) を参照してください (当社ウェブサイトからダウンロードすることができます)

Bluetooth機能

オプションのBluetoothユニット“BU-5”をコントロールヘッド内に取り付けて、オプションのBluetoothヘッドセット“SSM-BT20”または市販のBluetoothヘッドセットを使ってハンズフリー運用ができます



市販のすべてのBluetoothヘッドセットの動作を必ずしも保証するものではありません

Bluetoothユニット“BU-5”(オプション)を取り付ける



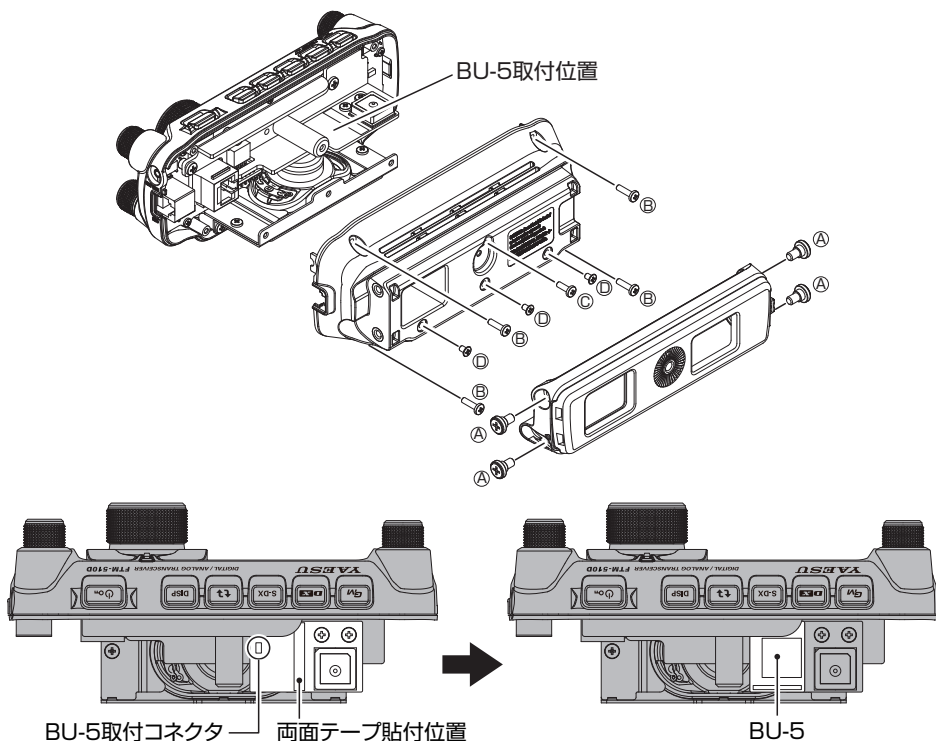
静電気などにより半導体が破損する恐れがありますので、必要な箇所以外には手を触れないでください

1. 電源をオフにして、コントロールヘッドからコントロールケーブルを抜きます
2. コントロールヘッドの4本のネジ(図中A)を外します
3. コントロールヘッドの背面の8本のネジ(図中B、C、D)を外し、背面ケースを外します



A、B、C、Dのネジは、それぞれサイズが異なります。BU-5の取付が終わりケースを元に戻す時に間違えないようご注意ください

4. BU-5に付属の両面テープを基板上的白枠に合わせて貼ります
5. 基板上的コネクタにBU-5のコネクタを差し込みます
6. 背面ケースを元通りに取り付けます

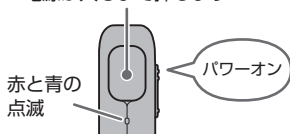


はじめてヘッドセットと接続する

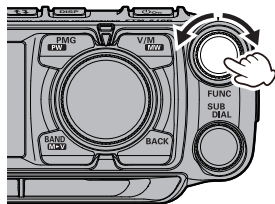
Bluetoothヘッドセットを使用するには、本機への登録（ペアリング）が必要です
この操作は最初に一度だけ必要です

1. SSM-BT20 の[マルチファンクションボタン] を 3 秒以上押し
して電源を入れます
SSM-BT20 のLED が赤と青に交互に点滅します

電源が入るまで押します



2. FUNCツマミを長押しします



3. [110 Bluetooth] にタッチします
またはFUNCツマミをまわして [110 Bluetooth] を選択 →
FUNCツマミを押す
4. FUNCツマミを押します

OPTION	
110 Bluetooth	>
111 ホワイトメモリー	
112 FVS 録音開始	
113 FVS トラック選択	
>	

5. FUNCツマミをまわして [Bluetooth] を“ON” にします
設定項目が表示されます
6.  キーを押します
7. FUNCツマミをまわして [DEVICE] を選択してFUNCツマミ
を押します

OPTION	
110 Bluetooth	
Bluetooth	ON
DEVICE	
STATUS	Disconnected
AUDIO	AUTO

8. [SEARCH] が選択（赤色で表示）されていますのでSUB
DIALツマミを押します
サーチが始まり、見つかったBluetooth機器がデバイスリスト
に表示されます
9. 接続するヘッドセットが表示されたら  キーを押してサー
チを中止します

DEVICE LIST	
SSM-BT20	
yaesu-01	
yaesu-02	
Searching	

10. FUNCツマミをまわして接続するヘッドセットを選択します
11. SUB DIALツマミを押します
12. 【CONNECT】が選択（赤色で表示）されていますのでSUB DIALツマミを押すとヘッドセットと接続します

以上でペアリングは完了です

- SSM-BT20 のLED が青色の点滅になります

13. 通常画面に戻り、Bluetoothヘッドセットを使用できます
Bluetoothヘッドセットと接続中は、本機の画面に“”アイコンが点灯して、本機の受信音や操作のピープ音がBluetoothヘッドセットから聞こえます
- 【DEVICE】欄に接続したヘッドセットの名称が表示され、【STATUS】欄には“Connected”と表示されます

DEVICE LIST		
SSM-BT20		
yaesu-01		
yaesu-02		
CONNECT	DEL ALL	SEARCH

OPTION	
110 Bluetooth	
Bluetooth	ON
DEVICE	SSM-BT20
STATUS	Connected
AUDIO	AUTO

● Bluetooth機能をオフにする

左ページの手順5で“OFF”を選択します

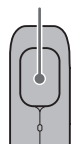
● 次回電源をオンにしたときのBluetoothヘッドセットの接続について

- Bluetoothヘッドセットと接続中に電源をオフにして、次回、電源をオンにしたときは、同じBluetoothヘッドセットをサーチして自動で接続します
- Bluetoothヘッドセットが見つからない場合は画面の“”アイコンが点滅します。この状態で同じBluetoothヘッドセットの電源をオンにすると自動で接続します。接続されない場合には、本機とBluetoothヘッドセットの電源を一度オフにしてからオンにしてください
- 別のBluetoothヘッドセットと接続する場合には、“別のBluetoothヘッドセットと接続する”（62 ページ）を参照して操作してください

Bluetoothヘッドセットのボタンを押して送信する（VOX機能がオフの場合）

SSM-BT20 の[マルチファンクションボタン]を押すと本機が送信状態になり、送信を継続します
もう一度[マルチファンクションボタン]を押すと、本機が受信状態に戻ります

短く押す



Bluetoothヘッドセットでハンズフリー運用をする（VOX機能）

VOX機能をオンにするとBluetoothヘッドセットを使って、話すだけで自動的に送信になるハンズフリー運用ができます。60 ページの“VOX機能を使う”を参照して、VOX機能をオンにします



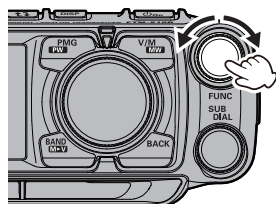
VOX機能の設定はBluetoothヘッドセットと、本機に接続しているマイクで共通です
Bluetoothヘッドセットを使わない場合で、接続しているマイクでVOX機能を使用しないときはVOX機能を“OFF”に設定してください

VOX(音声自動送信)機能

VOX(音声自動送信)機能をオンにすると、話すだけで自動で送信状態になります。Bluetoothヘッドセットを使うと、話すだけで自動で送信するハンズフリー運用ができます

VOX機能を使う

1. FUNCツマミを長押しします
2. [11 VOX設定] にタッチします
またはFUNCツマミをまわして [11 VOX設定] を選択 → FUNCツマミを押す



3. FUNCツマミをまわして “LOW” または “HIGH” を選択します

OFF : VOX機能 オフ
LOW : VOX機能 オン (VOX感度 “低”)
HIGH : VOX機能 オン (VOX感度 “高”)

- 工場出荷時設定は “OFF” です
- “LOW” または “HIGH” に設定したときは、接続中のBluetoothヘッドセットからの音声で自動で送信します
Bluetooth機能が “オフ” のときは、本体に接続したマイクロホンからの音声で自動で送信します

TX	
11 VOX 設定	
VOX	OFF
デレイ	0.5 秒
VOX マイク	FRONT

4. [S-DX]、[ON]、[BACK] 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります

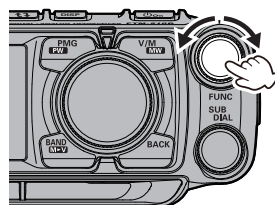
● VOX機能をオフにする

上記の手順 3 で “OFF” を選択します

VOX(音声自動送信)ディレイ時間を設定する

VOX(音声自動送信)機能で送信中に、話すのを止めてから受信に戻るまでの時間を設定します
話している途中で受信に戻ってしまうような場合には長めに調節します

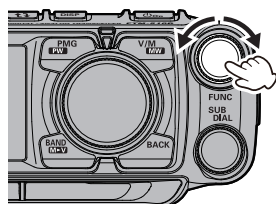
1. FUNCツマミを長押しします
2. **【11 VOX設定】**にタッチします
またはFUNCツマミをまわして**【11 VOX設定】**を選択 →
FUNCツマミを押す
3. FUNCツマミをまわして**【ディレイ】**を選択してFUNCツマミを押します
4. FUNCツマミをまわして“話すのを止めてから受信に戻るまでの時間”を設定します
0.5 秒/1.0 秒/1.5 秒/2.0 秒/2.5 秒/3.0 秒
工場出荷時設定は“**0.5 秒**”です
5. **S-DX**、**On**、**BACK** 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります



TX	
11 VOX 設定	
VOX	LOW
ディレイ	0.5 秒
VOX マイク	FRONT

別のBluetoothヘッドセットと接続する

1. 現在使用しているBluetoothヘッドセットの電源をOFFにします
2. **FUNC**ツマミを長押しします
3. **[110 Bluetooth]** にタッチします
または**FUNC**ツマミをまわして**[110 Bluetooth]** を選択 → **FUNC**ツマミを押す
4. **FUNC**ツマミをまわして**[DEVICE]** を選択して**FUNC**ツマミを押します
5. **SUB DIAL**ツマミをまわして**[SEARCH]** を選択して**SUB DIAL**ツマミを押します
 - Bluetooth機器をサーチして、下記の順序でデバイスリストに表示します
 - (1) サーチして見つかった
登録済のBluetooth機器 白い文字
 - (2) サーチして見つかった
登録されていないBluetooth機器 白い文字
 - (3) サーチして見つからなかった
登録済のBluetooth機器 グレーの文字
 - 途中でサーチを中止する場合は、 キーを押してサーチを中止します
6. 接続するBluetoothヘッドセットが表示されたら、 キーを押してサーチを中止します
7. **FUNC**ツマミをまわして接続するヘッドセットを選択します
8. **SUB DIAL**ツマミを押します
9. **[CONNECT]** が選択 (赤色で表示) されていますので**SUB DIAL**ツマミを押すとヘッドセットと接続します



DEVICE LIST		
SSM-BT20		
CONNECT	DEL ALL	SEARCH

DEVICE LIST		
SSM-BT20		
yaesu-01		
yaesu-02		
yaesu-03		
Searching		

DEVICE LIST		
SSM-BT20		
yaesu-01		
yaesu-02		
yaesu-03		
CONNECT	DEL ALL	SEARCH

● Bluetoothヘッドセットをリストから削除する

1. 現在使用しているBluetoothヘッドセットの電源をOFFにします
2. **FUNC**ツマミを長押しします
3. **[110 Bluetooth]** にタッチします
または**FUNC**ツマミをまわして**[110 Bluetooth]** を選択 → **FUNC**ツマミを押す
4. **FUNC**ツマミをまわして**[DEVICE]** を選択して**FUNC**ツマミを押します
5. **SUB DIAL**ツマミをまわして**[DEL ALL]** を選択して**SUB DIAL**ツマミを押します
デバイスリストからBluetoothヘッドセットが削除されます

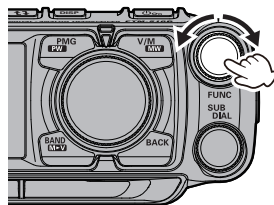


登録済のBluetoothヘッドセットが全て削除されます。個別に削除することはできません

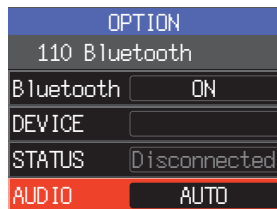
Bluetooth接続中に本機のスピーカーを鳴らすかどうかを設定する

Bluetoothヘッドセット接続すると、ヘッドセットからだけ受信音が聞こえ、自動でスピーカーは鳴らなくなるか、またはヘッドセットと本機のスピーカーの両方から受信音が聞こえるように設定することができます

1. **FUNC**ツマミを長押しします
2. **[110 Bluetooth]** にタッチします
または**FUNC**ツマミをまわして**[110 Bluetooth]** を選択 → **FUNC**ツマミを押す



3. **FUNC**ツマミをまわして**[AUDIO]** を選択して**FUNC**ツマミを押します
4. **FUNC**ツマミをまわしてBluetooth機器を接続しているときの本機のスピーカー切換動作を設定します
AUTO : 受信音はBluetoothヘッドセットだけから聞こえ、本機のスピーカーは鳴りません
FIX : 受信音がBluetoothヘッドセットと本機のスピーカーの両方から聞こえます

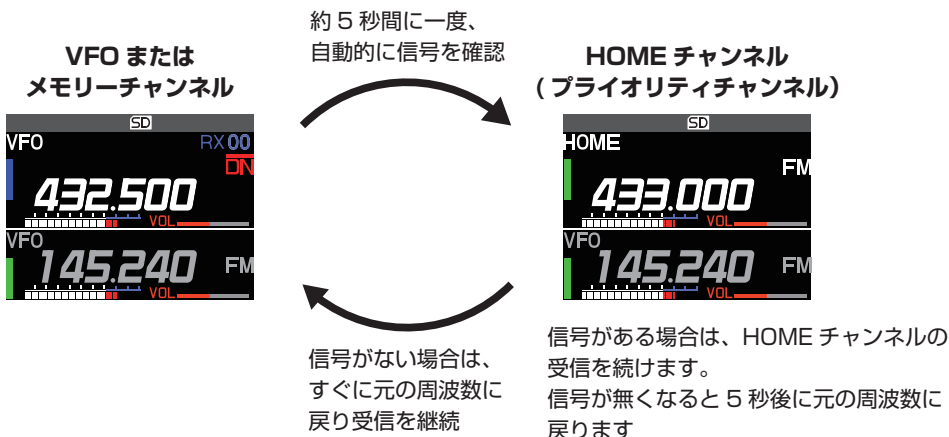


工場出荷時設定は“**AUTO**”です

5. **[S-DX]**、**[On]**、**[BACK]** 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります

デュアルレシーブ機能

現在のVFO周波数またはメモリーチャンネルを受信しながら、約5秒（工場出荷時設定）に一度、自動的に優先チャンネル（同じバンドのHOMEチャンネル）の信号を確認します。HOMEチャンネルに信号がある場合は、優先して受信を続けます
信号が無くなると約5秒後に、元の周波数に戻りプライオリティスキャンを再開します



● プライオリティ スキャン機能を使う

1. FUNCツマミを長押しします
2. [52 デュアル レシーブモード] にタッチします
またはFUNCツマミをまわして [52 デュアル レシーブモード] を選択 → FUNCツマミを押す
3. FUNCツマミをまわして [PRIORITY SCAN] を選択してFUNCツマミを押します
4. [S-DX]、[On]、[BACK] 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります

● プライオリティ スキャン機能を終了する

 キーを押すか、もう一度上記の操作を行い、手順3で [OFF] を選択します

音声録音機能を使う

音声録音機能は、信号を受信すると自動で録音を開始し、信号が無くなると録音が一時停止します。受信した相手局の音声や本機の送信音を microSD メモリーカードに長時間録音することができ、録音したファイルは FTM-510D/DS で再生することや microSD メモリーカードを取り出してパソコンで利用することができます。

● ファイルについて

- ファイルは microSD カードの **"VOICE"** フォルダに保存されます
- ファイル形式は Wave サウンド形式のファイル (拡張子は wav) です
- ファイル名は録音を開始した日時により **"YYMMDDmmhhss.wav"** (YY: 年、MM: 月、DD: 日、hh: 時、mm: 分、ss: 秒) となります

- 初めて microSD メモリーカードを使用するときは **"microSD メモリカードを初期化する"** (38 ページ) を参照して初期化してください



- ファイル名やファイルのタイムスタンプに日時の情報を使用しますので、音声録音機能を使う場合は、GPS を受信するか、または、**FUNC** ツマミ長押し → **[30 日付時刻設定]** (72 ページ参照) で、あらかじめ本機の日時を設定することをお勧めします

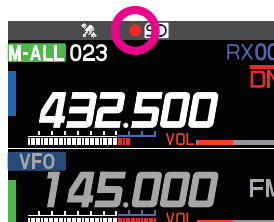
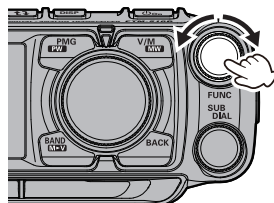
録音を開始する

1. **FUNC** ツマミを長押しします
2. **[41 録音 開始/停止]** にタッチします
または **FUNC** ツマミをまわして **[41 録音 開始/停止]** を選択 → **FUNC** ツマミを押す

"REC" と表示されて、録音ができる状態になります

3. **[S-DX]**、**[ON]**、**VOL/SQL** ツマミ以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります

- 画面の上部に **"II"** が表示されます
- 信号を受信すると自動で録音を開始します
- 録音中は画面上部の **"II"** の表示が **"■"** に替わります
- 信号が無くなると約 3 秒後に録音が自動的に一時停止して、**"■"** の表示が **"II"** に替わります。再び信号を受信すると録音を再開します
- 工場出荷時設定では **"メインバンド"** の **"受信音"** だけが録音されます。**"サブバンド"** や **"送信音"** を録音するには、次ページの **"録音の設定を変更する"** を参照して設定してください



- 録音を開始すると microSD カードの容量がいっぱいになるまで録音し続けます
- 本機の電源をオフにするときは、録音機能を停止してください

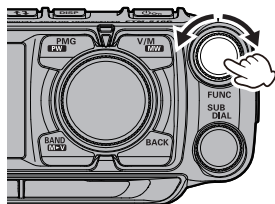
● 録音機能を停止する

1. **FUNC** ツマミを長押しします
2. **[41 録音 開始/停止]** にタッチします
または **FUNC** ツマミをまわして **[41 録音 開始/停止]** を選択 → **FUNC** ツマミを押す
 - **"STOP"** と表示されて、録音機能を停止します
 - 新たに録音を開始する度に、新しいファイルが作成されます

録音の設定を変更する

録音するバンドや送信音（マイクの音声）を録音するかどうかを設定できます
録音中は変更できませんので、録音を停止してから設定します

1. FUNCツマミを長押しします
2. **[40 録音設定]** にタッチします
またはFUNCツマミをまわして **[40 録音設定]** を選択 →
FUNCツマミを押す
3. FUNCツマミを押します



4. FUNCツマミをまわして、録音するバンドを選択します
MAIN : メインバンド（画面上側）を録音します
SUB : サブバンド（画面下側）を録音します
MAIN+SUB : メインバンドとサブバンドの両方を録音します



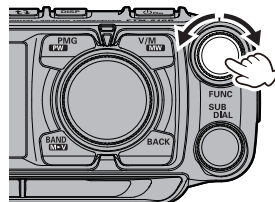
5.  キーを押します
6. FUNCツマミをまわして **[マイク]** を選択して、FUNCツマミを押します
7. FUNCツマミをまわして “ON” または “OFF” を選択します
ON : 送信音（マイクの音声）と受信音の両方を録音します
OFF : 受信音だけを録音します
8. 、、 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります

録音した音声を再生する



録音中や録音待機中(“●”や“■”が点灯中)は再生できません

1. FUNCツマミを長押しします
2. [62 LOG LIST] にタッチします
またはFUNCツマミをまわして [62 LOG LIST] を選択 →
FUNCツマミを押す



3. FUNCツマミをまわして [VOICE] を選択してFUNCツマミを押します
• 録音したファイルがリスト表示されます
4. FUNCツマミをまわして再生するファイルを選択します
• SUB DIALツマミを押すとファンクションキーが表示されます
• SUB DIALツマミを押して、SUB DIALツマミをまわして [↕] を選択してSUB DIALツマミを押すと、一番古いファイルを表示します
• SUB DIALツマミを押して、SUB DIALツマミをまわして [TOP] を選択してSUB DIALツマミを押すと、一番新しいファイルを表示します

LOG VOICE	
20241109140518	14:05
20241109132407	13:24
20241103183042	11/03
20241103151222	11/03
20241022120112	10/22
20241022102430	10/22

LOG VOICE	
20241109140518	14:05
20241109132407	13:24
20241103183042	11/03
20241103151222	11/03
20241022120112	10/22
20241022102430	10/22
DEL	TOP

5. FUNCツマミを押すと再生が始まります
再生中は受信音は聞こえません

VOICE PLAY	
241109140518.wav	
00:44:34	
00:14:30	
◀◀	
▶▶	

- FUNCツマミをまわして [||] を選択してFUNCツマミを押すと、再生を一時停止します
- FUNCツマミをまわして [◀◀] または [▶▶] を選択してFUNCツマミを押すと、5秒ずつ早戻し/早送りします

● ファイルを削除する

1. 上記の手順3の後で、FUNCツマミをまわして削除するファイルを選択してSUB DIALツマミを押します
2. SUB DIALツマミをまわして “DEL” を選択してSUB DIALツマミを押します
3. SUB DIALツマミをまわして “OK” を選択してSUB DIALツマミを押します
ファイルが削除されます

GPS機能

FTM-510D/DSはGPS(Global Positioning System)受信機能を標準装備しています
GPS衛星からの信号を受信すると内部時計の時刻設定や自局のGPS位置情報が自動で取得できます



GPS機能についての説明は、取扱説明書（詳細編）を参照してください（当社ウェブサイトからダウンロードすることができます）

WIRES-X機能

WIRES-X(Wide-coverage Internet Repeater Enhancement System)は、インターネットを利用したデジタル通信システムです。本機からWIRES-Xのローカルノード局に接続して遠距離の相手局とインターネット通信を楽しむことができます

また、ニュースステーション機能を使ってデジタルデータ（テキスト、画像、音声）の書き込み（アップロード）や読み出し（ダウンロード）ができます

WIRES-Xのノード局またはルームに接続すると本機のディスプレイにノード名やルーム名、相手局のコールサイン、距離、方位が表示されます

本機に、HRI-200を接続してノードやルームを開設することや、WIRES-Xポータブルデジタルノード機能を使って可搬性に優れたノード運用をすることができます



WIRES-X機能についての説明は、取扱説明書（WIRES-X編）を参照してください（当社ウェブサイトからダウンロードすることができます）

APRS(Automatic Packet Reporting System)機能

アマチュア無線で自局のGPS位置情報を表示する機能にはいろいろな種類がありますが、APRSはWB4APR Bob Bruninga氏が提唱するフォーマットを使用して、自局位置情報やメッセージ等のデータ通信を行うシステムです

相手局のAPRS信号を受信すると、本機のディスプレイに自局から見た相手局の方向、距離、速度、移動方向等が表示されます

APRS機能を使用する際は、自分のAPRS用のコールサインやシンボルなどの設定（初期設定）が必要です



APRS機能についての説明は、取扱説明書（APRS編）を参照してください（当社ウェブサイトからダウンロードすることができます）



下記の機能についての説明は、取扱説明書（詳細編）を参照してください（当社ウェブサイトからダウンロードすることができます）

デジタルパーソナルID(DP-ID)機能

C4FMデジタル通信の送信電波に含まれている無線機ごとに異なる個別ID情報を登録した無線機同士だけで通信を行うことができます。家族や親しい友人とお互いの無線機にDP-IDを登録しておけば、もし仲間のグループとの交信に使っているDG-ID番号が違っていてもID番号を変更することなく、そのまま交信をすることができます

トーンスケルチ機能

トーンスケルチを使うと、設定した周波数のトーンが含まれた信号を受信したときだけ音声を聞くことができます。あらかじめ相手局とトーン周波数をあわせておくことにより、静かな待ち受けができます

デジタルコードスケルチ(DCS)機能

デジタルコードスケルチ(DCS)を使うと、設定したDCSコードが含まれた信号を受信したときだけ音声を聞くことができます

ページャー(EPCS)機能

ページャー(EPCS)を使うと、2つの個別コードを設定して、特定の局だけを呼び出せます。さらに呼び出しを受けたときにベル音を鳴らすことができます

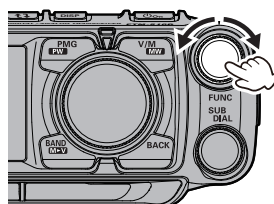
セットアップメニュー

127 種類のセットアップメニューを使って、本機の設定を使いやすくカスタマイズすることや、様々な機能を動作させることができます

セットアップメニューの操作方法

1. FUNCツマミを長押しします

セットアップメニュー画面が表示されて、前回使ったメニュー項目が選択されます



2. FUNCツマミをまわして項目を選びます

または項目にタッチします

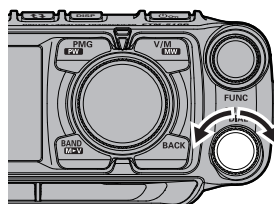
- キーを押すと一つ前の画面に戻ります
- SUB DIALツマミをまわすと、メニューの各カテゴリーの項目にジャンプします

右にまわす → 各カテゴリーの先頭項目にジャンプ

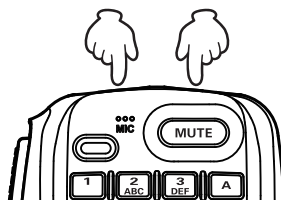
左にまわす → 各カテゴリーの最終項目にジャンプ

- マイクのUPキーを押すと、メニューの各カテゴリーの先頭項目にジャンプします
- マイクのDWNキーを押すと、メニューの各カテゴリーの最終項目にジャンプします

DISPLAY	
1 キーハット	>
2 LCD 画面輝度	
3 周波数表示色	
4 ハット スコープ	
	>



DISPLAY ↔ TX ↔ RX ↔ MEMORY ↔ CONFIG ↔ AUDIO
 ↔ SIGNALING ↔ SCAN ↔ DIGITAL ↔ GM ↔ WIRES-X
 ↔ DATA ↔ APRS ↔ SD CARD ↔ OPTION ↔ CLONE ↔
 RESET



3. 次の階層がない場合は、手順 4 へ進みます

次の階層がある場合は、FUNCツマミを押してからまわして項目を選び、FUNCツマミを押します

4. FUNCツマミをまわして設定を変更します

5. 、、 以外のキーやツマミを押すと設定を終了して運用画面に戻ります

セットアップメニューの一覧表

メニュー番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
DISPLAY		
1 キーパッド	周波数を直接入力またはメモリーチャンネルリストを表示します	—
2 LCD 画面輝度	バックライト、キー照明の輝度設定	MIN / MID / MAX
3 周波数表示色	操作バンドの周波数表示色の設定	WHITE / BLUE / RED
4 バンド スコープ	バンドスコープのサーチチャンネル切り替え	WIDE / NARROW
5 位置情報表示	スマートナビゲーション機能の表示方法を設定	コンパス / 緯度経度
6 コンパス	スマートナビゲーション機能およびAPRSポップアップ画面のコンパスの表示方法を設定	HEADING UP / NORTH UP
7 ディスプレイ モード	バックトラック画面、高度画面、タイマー/クロック画面、GPSインフォメーション画面を表示	BACKTRACK / ALTITUDE / TIMER/CLOCK / GPS INFORMATION
TX		
8 送信出力	送信出力の設定	LOW / MID / HIGH
9 AMS送信モード	AMS中の送信モードの設定	AUTO / TX FM FIXED/ TX DN FIXED
10 マイク ゲイン	マイク入力レベルの調整	MIN / LOW / NORMAL / HIGH / MAX
11 VOX設定	VOX(音声自動送信) の設定	VOX : OFF / LOW / HIGH ディレイ : 0.5 秒 / 1.0 秒 / 1.5 秒 / 2.0 秒 / 2.5 秒 / 3.0 秒 VOXマイク : FRONT / REAR
12 オート ダイアラ	DTMFコードの自動送信の設定	ON / OFF
13 TOT	タイムアウトタイマーの設定	OFF / 1 分 / 2 分 / 3 分 / 5 分 / 10 分 / 15 分 / 20 分 / 30 分
14 DIGITAL VW設定	VW(Voice FR)モードの選択設定	ON / OFF
RX		
15 FM帯域幅	FM帯域幅の設定	WIDE / NARROW
16 受信モード設定	受信モードの切り替え	AUTO / FM / AM
17 サブバンド		
サブバンド	サブバンド (画面下側) の表示をOFFにして、メインバンド (画面上側) だけ表示します	ON / OFF
サブバンドミュート	メインバンドに信号が入感した時のサブバンド側の音声ミュート設定	ON / OFF
18 オーディオ イコライザー		
FRONT TONE	コントロールヘッドのスピーカーの音質調整	OFF / FLAT / HI PITCH / LO PITCH / BPF
REAR TONE	無線機本体のスピーカーの音質調整	FLAT / HI PITCH / LO PITCH / BPF / 1kHz LPF / 700Hz LPF
REAR OUT	無線機本体のスピーカーの出力レベル調整	0 ~ 100% (10%単位)

メニュー番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
AESS PHASE	無線機本体のスピーカーの出力をコントロールヘッドのスピーカー出力より遅らせて出力します	OFF / 1.25ms ~ 10.00ms ~ 20.00ms
MEMORY		
19 HOME CH	ホームチャンネルの呼び出し	AIR/バンド: 108.000MHz 144MHz/バンド: 145.000MHz VHF/UHF/バンド: 174.000MHz 430MHz/バンド: 433.000MHz
20 メモリー リスト	メモリーチャンネルリストの表示	—
21 メモリー リスト モード	メモリーリスト機能のON/OFF	ON / OFF
22 PMG		
PMG TIMER	PMG同時受信時に信号がなくなると判断する時間	0.5 秒 / 1 秒 / 2 秒
PMG CLEAR	PMG に登録した全ての周波数(チャンネル)を消去します	—
PMG HOLD	過去に受信した信号のバーグラフが消え始めるまでの時間設定	2 秒 / 5 秒 / 10 秒 / 20 秒 / 30 秒
CONFIG		
23 BEEP	ビーブ音の音量設定	OFF / LOW / HIGH
24 BAND スキップ	選択できるバンド(周波数帯)の設定	AIR : ON / OFF VHF : ON / OFF UHF : ON / OFF OTHER : ON / OFF
25 RPT ARS	ARS(オートレピーターシフト)機能のON/OFF設定	AUTO / OFF
26 RPT シフト	レピータシフト方向の設定	AUTO / — / +
27 RPT シフト周波数	レピータシフト幅の設定	0.00MHz ~ 99.95MHz (0MHz 、 430MHz帯のみ 5MHz)
28 RPT リバース	レピータシフトまたはスプリットメモリーの送受信周波数を一時的に入れ換えます	NORMAL /REVERSE
29 マイク プログラムキー	マイクロホンのプログラムキーの機能設定	OFF / 2nd PTT / GM / REC/STOP / SCAN / HOME CH / RPT SHIFT / REVERSE / TX POWER / SQL OFF / T-CALL / VOICE* / D_X / PR FREQ / STN LIST / MSG LIST / REPLY / MSG EDIT / DW (※オプションのFVS-2が必要です) P1 : 2nd PTT P2 : HOME CH P3 : D_X P4 : TX POWER
30 日付時刻設定	本機の時計機能の日付と時刻の設定	—
31 日付時刻形式	日付や時刻の表示形式の設定	日付: yyyy/mm/dd / dd/mm/yy yyyy/dd/mm / mm/dd/yyyy 時刻: 24 時間 / 12 時間
32 タイムゾーン	タイムゾーンの設定	UTC -14:00 ~ ± 0:00 ~ +14:00 (UTC + 9:00)

メニュー番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
33 周波数ステップ	周波数ステップの設定	AUTO / 5.00kHz / 6.25kHz / (8.33kHz) / 10.00kHz / 12.50kHz / 15.00kHz / 20.00kHz / 25.00kHz / 50.00kHz / 100.00kHz (8.33kHz は AIRバンドのみ)
34 クロック タイプ	クロックシフトの設定	A / B
35 表示単位	表示単位の設定	METRIC / INCH
36 オートパワーオフ設定	オートパワーオフ動作時間の設定	OFF / 0.5 時間/ 1.0 時間/ 1.5 時間/ 2.0 時間 ~ 12.0 時間
37 GPS測位設定	GPS測地系の設定	WGS-84 / TOKYO MEAN
38 GPSデバイス	GPSデータの入力の設定	内蔵 / 外部接続
39 GPSログインターバル	GPSログ (移動軌跡保存) を記録する時間間隔の設定	OFF / 1 秒 / 2 秒 / 5 秒 / 10 秒 / 30 秒 / 60 秒

AUDIO

40 録音設定	録音機能の設定	バンド : MAIN / SUB / MAIN+SUB マイク : ON / OFF
41 録音 開始/停止	録音の開始と停止	—
42 フロント スピーカ ミュート	外部スピーカーを接続した時のフロントスピーカーの動作設定	CONTINUE / AUTO MUTE

SIGNALING

43 DTMF	登録してあるDTMFコードの送出	—
44 DTMF メモリー設定	DTMFコードの登録	1 ~ 9
45 スケルチ タイプ	スケルチタイプの設定	OFF / TONE ENC / TONE SQL / REV TONE / DCS / PR FREQ / PAGER / JR FREQ / (DCS ENC) / (TONE DCS) / (DCS TSQL) ※括弧内は “47 スケルチ拡張” の設定が “ON” の時のみ選択可能です
46 トーン周波数/ DCS コード	トーン周波数または DCSコードの設定 (“45 スケルチタイプ” の設定による)	トーン周波数 : 67.0Hz ~ 254.1Hz (88.5Hz) DCSコード : 023 ~ 754
47 スケルチ 拡張機能	送受信で別々のスケルチタイプの設定の許可	ON / OFF
48 ページャー コード	ページャー機能の個別コード (送信 / 受信) の設定	RX-CODE 1 : 01 ~ 05 ~ 50 RX-CODE 2 : 01 ~ 47 ~ 50 TX-CODE 1 : 01 ~ 05 ~ 50 TX-CODE 2 : 01 ~ 47 ~ 50
49 私鉄空線周波数	空線スケルチ周波数の設定	300Hz ~ 1500Hz ~ 3000Hz
50 ベル設定	ベル機能の設定	OFF / 1 回 / 3 回 / 5 回 / 8 回 / 連続

SCAN

51 SCAN	スキャン動作の開始/停止	—
52 デュアル レシーブモード	デュアルレシーブ機能の動作設定	OFF / PRIORITY SCAN
53 デュアル レシーブ間隔	デュアルレシーブの受信間隔設定 “52 デュアル レシーブモード” の設定が “PRIORITY SCAN” 時に有効	0.5 秒 / 1.0 秒 / 2.0 秒 / 3.0 秒 / 5.0 秒 / 7.0 秒 / 10 秒

メニュー番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
54 プライオリティ リポート	デュアルレシーブ動作中の送信操作で、常にホームチャンネルで送信することができます	OFF / ON
55 SCAN RESUME	スキャンストップ時のスキャン動作再開条件の設定	BUSY / HOLD / 1 秒 / 3 秒 / 5 秒

DIGITAL

56 ポップアップ設定	POP UP時間の設定	OFF / 2 秒 / 4 秒 / 6 秒 / 8 秒 / 10 秒 / 20 秒 / 30 秒 / 60 秒 / 連続
57 位置情報ON/OFF	デジタルモードでの自局位置情報の送信設定	ON / OFF
58 スタンバイビーブ	C4FMデジタルモードのスタンバイビーブ音のON/OFF	ON / OFF

GM

※機能の詳細については、取扱説明書 (GM編) を参照してください (当社ウェブサイトからダウンロードすることができます)

59 DP-ID LIST	DP-IDリストを表示します。受信したコールサインの登録/削除	—
60 レンジ リンガー	交信圏内局確認時のベル音のON/OFF の設定	ON / OFF
61 RADIO ID	無線機固有の番号を表示 注意: RADIO ID のアルファベットは大文字と小文字の区別があります	— (編集不可)
62 LOG LIST	録音した音声、受信したメッセージや画像のリストの表示	—

WIRES-X

※機能の詳細については、取扱説明書 (WIRES-X編) を参照してください (当社ウェブサイトからダウンロードすることができます)

63 WIRES 周波数	WIRES で運用する周波数の設定	MANUAL / PRESET プリセット周波数 (工場出荷時設定): 145.780MHz /438.980 MHz
64 サーチ条件	WIRES-Xルームの選択方法の設定	HISTORY / ACTIVITY
65 カテゴリー タグ 編集	カテゴリータグの編集	C1 ~ C5
66 ROOM/NODE 削除	カテゴリーに登録されているROOM/NODE の削除	C1 ~ C5
67 WIRES DG-ID	WIRES-Xノード局に接続するDG-ID の設定	AUTO / 01 ~ 99

メニュー番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
DATA		
68 COM ポート 設定	COMポートの設定	速度：4800bps / 9600bps / 19200bps / 38400bps / 57600bps 出力： OFF / GPS OUT / PACKET / WAYPOINT WPフォーマット： NMEA 9 / NMEA 8 / NMEA 7 / NMEA 6 WPフィルタ： ALL / MOBILE / FREQUENCY / OBJECT/ITEM / DIGIPEATER / VoIP / WEATHER / YAESU / CALL RINGER / RANGE RINGER
69 データ バンド 選択	APRS/DATA のバンド選択設定	APRS：MAIN BAND / SUB BAND / THIS BAND / OTHER BAND データ：MAIN BAND / SUB BAND / THIS BAND / OTHER BAND
70 データ スピード	APRS/DATA通信ボーレートの設定	APRS： 1200 bps / 9600 bps データ： 1200 bps / 9600 bps
71 データ スケルチ	スケルチ検出設定	APRS： RX BAND / TX/RX BAND データ： RX BAND / TX/RX BAND TX： ON / OFF

APRS		
※APRS機能の詳細については、取扱説明書（APRS編）を参照してください（当社ウェブサイトからダウンロードすることができます）		
72 APRS DESTINATION	モデルコードの表示	APY500(編集不可)
73 APRS フィルター	フィルター機能の選択	Mic-E： ON / OFF POSITION： ON / OFF WEATHER： ON / OFF OBJECT： ON / OFF ITEM： ON / OFF STATUS： ON / OFF OTHER： ON / OFF RANGE LIMIT： OFF / 1km / 10km 100km / 1000km 3000km ALTNET： ON / OFF
74 APRS メッセージ テキスト	定型メッセージテキストの入力	1～8
75 APRS MODEM	APRS機能のON/OFF設定	OFF / ON
76 APRS ミュート	APRS の受信バンドのAFミュートのON/OFF設定	OFF / ON
77 APRS ポップアップ	ポップアップ表示させるビーコン やメッセージの種類と時間の設定	ビーコン： OFF / 3秒 / 5秒 / 10秒 / HOLD メッセージ： OFF / 3秒 / 5秒 / 10秒 / HOLD MY パケット： OFF / ON

メニュー番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
78 APRS リンガー	ビーコンやメッセージの着信時のベル音設定	TX BEACON : ON / OFF TX MESSAGE : ON / OFF RX BEACON : ON / OFF RX MESSAGE : ON / OFF MY PACKET : ON / OFF CALL RINGER : ON / OFF RANGE RINGER : OFF / 1km / 5km / 10km / 50km / 100km MSG VOICE : ON / OFF
79 APRS リンガー (CS)	CALL RINGER用コールサインの設定	1 ~ 8 局
80 APRS 送信 ディレイ	データ送出ディレイ時間の設定	100 ms / 150 ms / 200 ms / 250 ms / 300 ms / 400 ms / 500 ms / 750 ms / 1000 ms
81 APRS 単位系	APRS表示の単位設定	POSITION : dd°mm.mm' / dd°mm'ss" DISTANCE : km / mile SPEED : km/h / mph / knot ALTITUDE : m / ft BARO : hPa / mb / mmHg / inHg TEMP : °C / °F RAIN : mm / inch WIND : m/s / mph / knot
82 BEACON インフォメーション	送信ビーコン情報の設定	AMBIGUITY : OFF / 1 digit / 2 digits / 3 digits / 4 digits SPEED/COURSE : ON / OFF ALTITUDE : ON / OFF
83 BEACON ステータステキスト	ビーコンステータステキストの入力設定	SELECT : OFF / TEXT 1 ~ 5 TX RATE : 1/1 ~ 1/8 / 1/2(FREQ) ~ 1/8(FREQ) TEXT 1 ~ 5 : NONE / FREQUENCY / FREQ & SQL & SHIFT
84 BEACON 送信設定	ビーコンの自動送信/手動送信の切り替え	AUTO : OFF / ON / SMART* ※ "99 スマートビーコニング設定" を TYPE1 ~ 3 に設定したときのみ表 示されます INTERVAL : 30 秒 / 1 分 / 2 分 / 3 分 / 5 分 / 10 分 / 15 分 / 20 分 / 30 分 / 60 分 PROPORTIONAL : ON / OFF DECAY : ON / OFF LOW SPEED : 1km/h ~ 5km/h ~ 99km/h RATE LIMIT : 5 秒 ~ 30 秒 ~ 180 秒
85 DIGI バス設定	デジピータールートの設定	OFF / WIDE1-1 / WIDE1-1, WIDE2-1 / PATH 1 / PATH 2 / PATH 3 / PATH 4 / FULL 1 / FULL 2
86 DIGI PATH 1	デジピータールートのアドレス設定	ADDRESS 1 : - ADDRESS 2 : -
87 DIGI PATH 2	デジピータールートのアドレス設定	ADDRESS 1 : - ADDRESS 2 : -

メニュー番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
88 DIGI PATH 3	デジピータールートのアドレス設定	ADDRESS 1 : - ADDRESS 2 : -
89 DIGI PATH 4	デジピータールートのアドレス設定	ADDRESS 1 : - ADDRESS 2 : -
90 DIGI PATH FULL 1	デジピータールートのアドレス設定	ADDRESS 1 : - ~ ADDRESS 8 : -
91 DIGI PATH FULL 2	デジピータールートのアドレス設定	ADDRESS 1 : - ~ ADDRESS 8 : -
92 コールサイン APRS	自局のAPRS用コールサイン設定	----- --
93 メッセージ グループ	受信メッセージのグループ フィルター設定	GROUP1 : ALL***** GROUP2 : CQ***** GROUP3 : QST***** GROUP4 : YAESU***** GROUP5 : ----- GROUP6 : ----- BULLETIN1 : BLN?***** BULLETIN2 : BLN?----- BULLETIN3 : BLN?-----
94 メッセージ 応答	受信メッセージの自動応答設定	REPLY : OFF / ON CALLSIGN : ***** REPLY TEXT : -----
95 MY ポジション 選択	自局位置情報の選択	GPS / MANUAL
96 MY ポジション	自局位置の緯度経度の設定	LAT : N 0° 00.00' (' 00") LON : E 0° 00.00' (' 00")
97 MY シンボル	自局シンボルの設定	ICON 1 : [/>] Car ICON 2 : [/R] REC.Vehicle ICON 3 : [/] House QTH (VHF) USER : [YY] Yaesu Radios
98 ポジション コメント	ポジションコメントの設定	Off Duty / En Route / In Service / Returning / Committed / Special / Priority / Custom 0 ~ Custom 6 / EMERGENCY!
99 スマートビーコニング設定	スマートビーコニングの設定	STATUS : OFF / TYPE1 / TYPE2 / TYPE3 ※ TYPE ごとの設定項目については、 取扱説明書 (APRS編) を参照してく ださい
100 ソート フィルター	ソート機能・フィルター機能の設定	SORT : TIME / CALLSIGN / DISTANCE FILTER : ALL / MOBILE / FREQUENCY / OBJECT/ITEM / DIGIPEATER / VoIP / WEATHER / YAESU / OTHER PACKET / CALL RINGER / RANGE RINGER / 1200 bps / 9600 bps
101 ボイス アラート	ボイスアラート機能の設定	VOICE ALERT : NORMAL / TONE SQL / DCS / RX-TSQL / RX-DCS TONE SQL : 67.0Hz ~ 100.0Hz ~ 254.1Hz DCS : 023 ~ 754
102 ステーション リスト	APRSステーションリストを表示	-
103 メッセージ リスト	APRSメッセージリストを表示	-

メニュー番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
104 ビーコン 送信選択	ビーコンの自動送信/手動送信/ スマートビーコニングの切替	MANUAL / AUTO / SmartBeaconing* ※ “99 スマートビーコニング設定” を TYPE1 ~ 3 に設定したときのみ表 示されます
105 ビーコン 手動送信	手動でのビーコン送信 (1 回)	—

SD CARD

106 バックアップ		
SD に書き込み	本機の下記の情報を microSD メモリカードに書き込みする	
全領域 メモリー領域 セットアップ領域	すべての設定情報 メモリーチャンネル情報 セットアップメニュー情報	—
SD から読み込み	下記の情報を microSD メモリカードから本機に読み込みする	
全領域 メモリー領域 セットアップ領域	すべての設定情報 メモリーチャンネル情報 セットアップメニュー情報	—
107 メモリー情報	microSD メモリーカードの メモリー使用状況を表示	—
108 フォーマット	microSD メモリーカードの初期化	—
109 画像取り込み	QVGA サイズ以下の JPEG 画像を FTM-510D/DS の画面で表示し たり、画像データを送信できるよ うにデータを変換します	—

OPTION

110 Bluetooth オプションの Bluetooth ユニット BU-5 の設定		
Bluetooth	Bluetooth 機能の設定	OFF / ON
DEVICE	登録済またはサーチで見つかった Bluetooth 機器のリスト表示	—
STATUS	Bluetooth 機器の接続状態を表示	—
AUDIO	Bluetooth 機器の接続時のスピー カーの動作切替の設定	AUTO / FIX
111 ボイス メモリー オプションのボイスガイドユニット FVS-2 の設定		
録音/再生	録音動作の設定	フリー領域 5 分 / 最終 30 秒
音声アナウンス	周波数をアナウンスする条件の設定	AUTO / OFF / MANUAL
言語	アナウンスする言語の設定	日本語 / 英語
アナウンス音量	アナウンスの音量の設定	HIGH / LOW / MID
受信ミュート	アナウンスや再生時に受信音を ミュートする設定	ON / OFF
112 FVS 録音開始	受信音の録音を開始	—
113 FVS トラック選択	再生する音声トラックの選択	ALL / 1 ~ 8
114 FVS 再生開始	録音した音声の再生	—
115 FVS 停止	録音/再生の停止	—
116 FVS 消去	録音したすべての音声を消去	—
117 FVS ボイスガイダンス	現在の周波数の読み上げ	—

メニュー番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
CLONE		
118 クローン送信	すべての設定を他のFTM-510D/ DS に送信する	—
119 クローン受信	すべての設定を他のFTM-510D/ DS から受信する	—
RESET		
120 コールサイン	コールサインの設定 (最大 10 桁)	XXXXXXXXXX
121 メモリーチャンネル消去	メモリーチャンネルの消去	—
122 APRS 設定初期化	APRS の設定だけを工場出荷時の 値に戻す	—
123 CONFIG登録	本機の設定を保存	—
124 CONFIG呼び出し	保存した設定を読み込	—
125 ソフトウェアバージョン	ソフトウェアのバージョンを表示	Main Ver. / Sub Ver. / DSP Ver.
126 言語設定	セットアップメニュー、メニュー などの日本語 / 英語の切り替え	JAPANESE : 日本語 / ENGLISH : 英語
127 工場出荷初期化	すべての設定を工場出荷時設定に 戻す	—

設定を初期値に戻す（リセット）

注 意

リセットを行うと、全ての設定やメモリー内容などが工場出荷時設定に戻ります。リセットを行う前に、必要な設定やメモリー内容は必ず紙などに控えておくかmicroSDメモリーカードにバックアップしてください

オールリセット

全ての設定やメモリー内容を工場出荷時設定（初期値）に戻すことができます

1. **FUNC**ツマミを長押しします
セットアップメニュー画面が表示されます
2. **FUNC**ツマミをまわして【127 工場出荷初期化】を選択して
FUNCツマミを押します

RESET	
124	CONF IG呼び出し
125	ソフトウェア パーシ ョン >
126	言語設定
127	工場出荷初期化
>	

3. “**FACTORY RESET**”と確認画面が表示されますので、**FUNC**ツマミをまわして【**OK**】を選択します
リセット操作を中止するには【**CANCEL**】を選択して**FUNC**ツマミを押します
4. **FUNC**ツマミを押すとオールリセットされます
オールリセット後には、コールサインの入力画面が表示されますので、コールサインを設定してください（“コールサインを入力する”（4 ページ）を参照）

メモリーチャンネル消去

メモリーチャンネルの内容だけを消去することができます。メモリーした情報が全て消去されますが、メモリーチャンネル 001 は工場出荷時の設定 “145.000MHz” に戻ります

1. **FUNC**ツマミ長押し → 【121 メモリー チャンネル消去】 → **FUNC**ツマミ短押し
2. “**MEMORY CH RESET**”と確認画面が表示されますので、**FUNC**ツマミをまわして【**OK**】を選択します
リセット操作を中止するには【**CANCEL**】を選択して**FUNC**ツマミを押します
3. **FUNC**ツマミを押すと全てのメモリー内容が消去されます

APRS 設定初期化

APRS設定を消去して工場出荷時設定（初期値）に戻すことができます

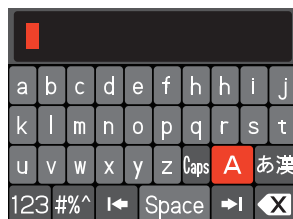
1. **FUNC**ツマミ長押し → 【122 APRS 設定初期化】 → **FUNC**ツマミ短押し
2. “**APRS RESET**”と確認画面が表示されますので、**FUNC**ツマミをまわして【**OK**】を選択します
リセット操作を中止するには【**CANCEL**】を選択して**FUNC**ツマミを押します
3. **FUNC**ツマミを押すとAPRS の全ての設定が初期化されます

文字入力画面の操作

自局のコールサインや、メモリーチャンネルのタグ（メモリータグ）などを入力するとき、キーボード画面が表示されます

● 基本的な文字の入力方法

- 希望の文字にタッチするかFUNCツマミをまわして文字を選択してFUNCツマミを押します
 - 選択した文字が入力されます
 - 同じ操作を繰り返して文字を入力します
- 全ての文字の入力が完了したらFUNCツマミを長押しします
入力した文字が確定されます



文字の削除やカーソルの操作

- : カーソルの移動
- : カーソル左側の文字を削除してカーソルが左に移動
- Space : スペースを入力
- 変換 : ひらがなを漢字に変換

● 漢字を入力する

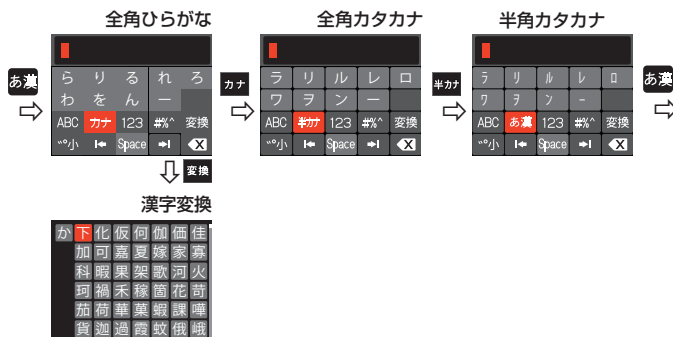
- 【あ漢】にタッチするかFUNCツマミをまわして【あ漢】を選択して、FUNCツマミを押します
“全角ひらがな入力画面”が表示されます
- 変換したい漢字の音読みの最初の1文字のひらがなをタッチするかFUNCツマミをまわして選択してFUNCツマミを押します
 - 漢字に変換しない場合は、続けて他の文字を入力します
- SUB DIALツマミを押します
 - “ひらがな”、“カタカナ”、“半角カタカナ”への変更は、“カナ”（または“半カナ”“あ漢”）部分にタッチすると変換できます
 - “ひらがな”は後で漢字に変換できます
- 【変換】にタッチするかFUNCツマミをまわして【変換】を選択して、FUNCツマミを押します
漢字の選択画面が表示されます
- 漢字にタッチするかFUNCツマミをまわして漢字を選択してFUNCツマミを押します
 - マイクロホンの[UP]/[DOWN]キーを押すと、一行ずつスクロールします
 - 漢字変換をやめるにはSUB DIALツマミを押します
- 選んだ漢字が確定されます



● 入力する文字を切り替える

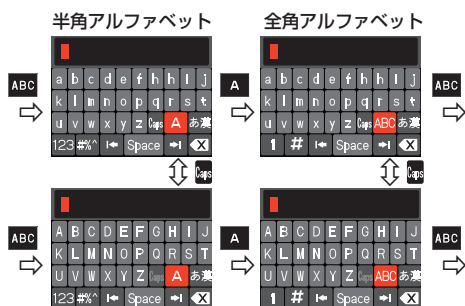
ひらがな / カタカナ / 半角カタカナ

- SUB DIALツマミを押してから、FUNCツマミをまわして【あ漢】、【カナ】、【半カナ】のいずれかを選択して、FUNCツマミを押すたびに下記のように切り替わります



アルファベット

- FUNCツマミをまわして【ABC】、【A】、【%】いずれかを選択して、FUNCツマミを押すたびに入力画面が下記のように切り替わります



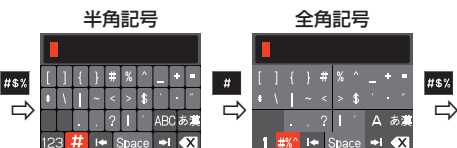
数字

- FUNCツマミをまわして【123】、【1】のどちらかを選択して、FUNCツマミを押すたびに画面が下記のように切り替わります



記号

- FUNCツマミをまわして【#\$%】、【#】のどちらかを選択して、FUNCツマミを押すたびに画面が下記のように切り替わります



● 一般定格

送受信可能周波数範囲	: 送信周波数範囲 144 ~ 146MHz、430 ~ 440MHz : 受信周波数範囲 108 ~ 137MHz (AIRバンド) 137 ~ 174MHz (144MHz HAM/VHFバンド) 174 ~ 400MHz (VHF/UHFバンド) 400 ~ 550MHz (430MHz HAM/UHFバンド)
送受信周波数ステップ	: 5/6.25/8.33/10/12.5/15/20/25/50/100kHz (AIRバンドに限り 8.33kHz を選択することができます)
電波型式	: F1D、F2D、F3E、F7W
周波数安定度	: $\pm 2.5\text{ppm}$ 以内 ($-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$)
アンテナインピーダンス	: 50 Ω
電源電圧	: DC13.8V $\pm 15\%$ (マイナス接地)
消費電流	: 受信無信号時 約 0.5A 送信定格出力時 約 10A (50W) / 約 6A (20W)
使用温度範囲	: $-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$
ケース寸法 (幅×高さ×奥行き)	: 本体 139 × 42 × 132mm (突起物を除く) コントロールヘッド 156 × 64 × 58.6mm (突起物を除く)
本体重量	: 約 1.4kg (本体、コントロールヘッドを含む)

● 送信部

送信出力	: FTM-510D 50W / 25W / 5W FTM-510DS 20W / 10W / 1W
変調方式	: F1D、F2D、F3E : リアクトランス変調、F7W : 4 値周波数偏移変調 (C4FM)
最大周波数偏移	: $\pm 5\text{kHz}$
不要輻射強度	: 60dB以下
マイクロホンインピーダンス	: 2k Ω
DATA端子インピーダンス	: 10k Ω

● 受信部

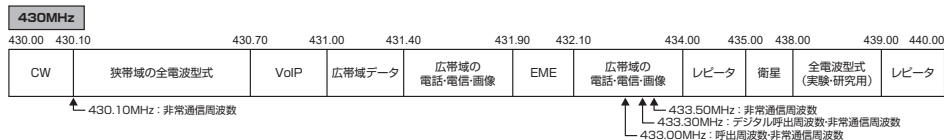
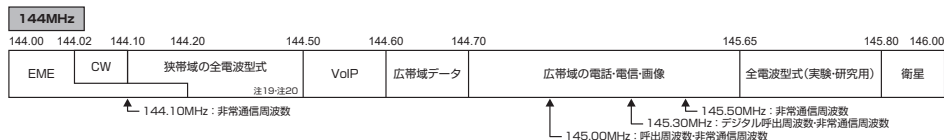
受信方式	: ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン
中間周波数	: MAINバンド : 第一IF周波数 56.75MHz、第二IF周波数 450kHz SUBバンド : 第一IF周波数 55.85MHz、第二IF周波数 450kHz
受信感度	: 0.8 μV typ @10dB SN (108 ~ 137MHz, AM) 0.2 μV @12dB SINAD (137 ~ 150MHz, FM) 0.25 μV @12dB SINAD (150 ~ 174MHz, FM) 0.3 μV typ @12dB SINAD (174 ~ 222MHz, FM) 0.25 μV typ @12dB SINAD (222 ~ 300MHz, FM) 0.8 μV typ @10dB SN (300 ~ 336MHz, AM) 0.25 μV typ @12dB SINAD (336 ~ 420MHz, FM) 0.2 μV @12dB SINAD (420 ~ 470MHz, FM) 0.2 μV typ @12dB SINAD (470 ~ 550MHz, FM) 0.19 μV typ @BER1% (デジタルモード)
スケルチ感度	: 0.16 μV (144/430MHz)
低周波定格出力	: 6W (8 Ω , THD10%、13.8V) フロントスピーカー 3W (8 Ω , THD10%、13.8V) 本体内部蔵スピーカー 3W (8 Ω , THD10%、13.8V) 外部スピーカー
低周波出力インピーダンス	: 8 Ω
副次的に発する電波等の強度	: 4nW以下

定格値は常温・常圧時の値です

バンド区分

アマチュア業務に使用する電波の型式および周波数の使用区分

この使用区分は令和 5 年 9 月 25 日に総務省より施行されております。電波を発射するときは、下記の使用区分にしたがって運用してください。なお、使用区分は改訂される場合がありますので、最新情報はJARLニュース等でご確認ください



狭帯域: 占有周波数帯幅が 3kHz以下のもの (A3E を除く)

広帯域: 占有周波数帯幅が 3kHzを超えるもの

- 平成 21 年総務省告示第 179 号の注 22 により、呼出周波数 (145.000MHz および 433.000 MHz) では、デジタルモードでの送信は禁止されています
- デジタルモードの呼出周波数は、145.300MHz と 433.300MHz を使用できます

免許申請書類の書きかた

- 本機は工事設計認証を受けた適合表示無線設備です。無線機の底面に貼ってあるラベルに工事設計認証番号 ("002-" から始まる番号) が記載されています
- 免許申請に関しては、総務省のホームページなどで最新情報を確認してください
- 免許申請書類は、総務省の「電波利用ホームページ」にある「アマチュア局の申請・届出 (手続様式) 」 (下記 URL) からダウンロードすることができます
<https://www.tele.soumu.go.jp/j/others/amateur/shinsei/index.htm>
- 電子申請で免許申請をする場合は、総務省ホームページの「電波利用電子申請」 (下記 URL) を参照してください
<https://www.denpa.soumu.go.jp/index.html>
電子申請に関するお問い合わせ先
ヘルプデスク
電話: 0120-810-718
- 「移動しない局」で申請する場合は「電波防護指針に基づく基準値に適合していることの確認書類」の提出が必要です。詳細は、総務省の「電波利用ホームページ」にある「電波の強度に対する安全施設について」を参照してください
<https://www.tele.soumu.go.jp/j/others/amateur/confirmation/safety/>
- 本機に付加装置 (トランスバーターやリニアアンプなど) を接続する場合は、一般財団法人日本アマチュア無線振興協会 (JARD) の保証を受ける必要があります
一般財団法人 日本アマチュア無線振興協会 (JARD)
JARD 保証事業センター
<https://www.jard.or.jp/warranty/>

FTM-510D/FTM-510DS のみを使用して移動する局として申請する場合

「移動しない局として申請」「付加装置（トランスバーターやリニアアンプ）を付けて申請」をする場合は次ページの記入例を参照してください

- 1. 総務省のダウンロードページにアクセスします（下記 URL）
<https://www.tele.soumu.go.jp/j/others/amateur/shinsei/index.htm>
- 2. 「①初心者やライトユーザーの方」の「免許申請（開局申請）」にある「様式」と「記載要領」をダウンロードします
- 3. 様式に必要な事項を記入します
下記の ■ 部分以外の記入については、ダウンロードした「記載要領」を参照してください

無線局事項書及び工事設計書（注 6）

6	免許の番号	※記載不要		A 第	号
7	申請（届出）の区分	開設			
8	住所及び氏名	上記 1 と同じ			
9	無線従事者免許証の番号	☐ 無線従事者免許 同時申請	同時申請の資格		
			国家試験受験番号		
			修了証明書の番号		
10	無線局の目的・通信事項	アマチュア業務用・アマチュア業務に関する事項			
11	呼出符号	※記載不要			
12	無線設備の常置場所	住 所	☐ 上記 1 及び 8 の住所と同じ		
13	移動範囲	移動する（陸上、海上及び上空）			
14	電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	☒ 指定可能な全ての電波の型式、周波数及び空中線電力			
15	備 考	無線機の底面に貼ってあるラベルに記載されている "002 -" から始まる番号			
工事設計書	第	送信機	適合表示無線設備の番号	工事設計認証番号を記入	
	第	送信機	適合表示無線設備の番号		
	第	送信機	適合表示無線設備の番号		
	第	送信機	適合表示無線設備の番号	☒ 印をつける	
	第	送信機	適合表示無線設備の番号		
	その他の工事設計			☒ 電波法第 3 章に規定する条件に合致する。	

移動しない局として申請する場合
付加装置（トランスバーターやリニアアンプ）を付けて申請する場合

- 1. 総務省のダウンロードページにアクセスします(下記 URL)
https://www.tele.soumu.go.jp/j/others/amateur/shinsei/index.htm
- 2. 「②その他の方」の「免許申請(開局申請)」にある「別表第一号」と「別表第二号の三第3」の「様式」と「記載要領」をダウンロードします
- 3. 様式に必要事項を記入します
下記の ■ 部分以外の記入については、ダウンロードした「記載要領」を参照してください

付加装置（トランスバーターやリニアアンプなど）を付けない場合は、適合表示無線設備として「工事設計認証番号（“002-” から始まる番号）」を記入することで、「発射可能な電波の型式及び周波数の範囲」「変調方式コード」「終段管」「定格出力(W)」の記入を省略することができます

12	電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	☒ 指定可能な全ての電波の型式、周波数及び空中線電力
適合表示無線機として工事設計認証番号を記入した場合はこの枠内の記入は不要		☐ 7 ☐ 9 ☐ 10 ☐ 11 ☐ 12 ☐ 15
		✓ 印をつける
第 送 信 機	変更の種類	☐ 取替 ☐ 増設 ☐ 撤去 ☐ 変更
	適合表示無線機の番号	工事設計認証番号(“002-”から始まる番号)を記入
	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	F1D, F2D, F3E, F7W : 144MHz帯 F1D, F2D, F3E, F7W : 430MHz帯
	変調方式コード	F1D, F2D, F3E, F7W : FM
	終段管	名称個数 電圧 13.8 V
	定格出力(W)	

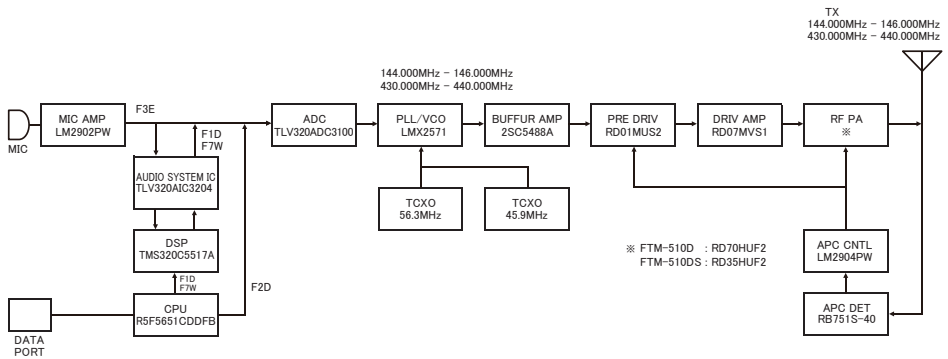
FTM-510Dの場合：RD70HUF2 × 1
FTM-510DSの場合：RD35HUF2 × 1

FTM-510Dの場合：50
FTM-510DSの場合：20

送信空中線の型式	使用するアンテナの型式を記入 移動する局は記入不要	
周波数測定装置の有無	周波数測定装置	☐ 有 ☐ 無
	施行規則第 11 条の 3 第 7 号の装置	☐ 有 ☐ 無
添付図面	☐ 送信機系統図	
その他の工事設計	☒ 電波法第 3 章に規定する条件に合致する。	

✓ 印をつける

送信機系統図



内部スプリアスについて

同時受信時の組み合わせによって、内部発振器の高周波による内部ビート等の影響がありますが、故障ではありません（下記計算式参照：nは任意の整数）

- 受信周波数 = $16\text{MHz} \times n$ 倍
- 受信周波数 = $12\text{MHz} \times n$ 倍
- 受信周波数 = $56.3\text{MHz} \times n$ 倍
- 受信周波数 = $45.9\text{MHz} \times n$ 倍
- 受信周波数 = $19.2\text{MHz} \times n$ 倍
- 上段側 (MAINバンド) の周波数 = (下段側 (SUBバンド) の周波数 $\pm 55.85\text{MHz}$) $\times n$ 倍
- 下段側 (SUBバンド) の周波数 = (上段側 (MAINバンド) の周波数 $\pm 56.75\text{MHz}$) $\times n$ 倍

YAESU

Radio for Professionals

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、
当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0570-088013

受付時間 平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

八重洲無線株式会社 〒140-0013 東京都品川区南大井6-26-3 大森ベルポートD-3F



Printed in Japan 2502A-BS-1

©2025 八重洲無線株式会社 無断転載・複写を禁ず